

■資料編■

【資料編 目次】

第5区民会議委員・参与名簿	47
第5期区民会議スケジュール	48
第5期区民会議関連資料	49
若い世代が住みやすいまちづくり部会	
1. 提言の解決に向けた委員のアイデア集	
2. 第2回あさ子育てフェスタアンケート集計結果	
3. 平成27年度第1回かわさき市民アンケート 一部抜粋	
市民活動・地域活動の活性化部会	61
4. 麻生老人福祉センターへの現地調査について（報告）	
5. 世田谷ボランティアセンターの現地調査について（報告）	
6. 健康づくりのつどい チラシ	
7. 健康づくりのつどい 区民との意見交換の結果等について	
麻生区区民会議ニュース	66
地域情報紙掲載記事	73

第5期区民会議委員・参与名簿

【区民会議委員】

(五十音順・敬称略)

氏名	選出区分(分野)	推薦団体等	役職	部会		
				企画	若い世代	市民活動
いしい いくろう 石井 郁朗	地域特性[文化芸術]	区長推薦			○	
いしい よしこ 石井 よし子	緑、環境分野	里山フォーラムin麻生				○
いしかわ わかこ 石川 和香子	公募	公募				○
うえき まさあき 植木 昌昭	市民活動団体	区長推薦				○
うえの ひろゆき 上野 博之	公募	公募		○	副部会長	
おかから すずむ 岡倉 進	公募	公募	副委員長	○		部会長
おび しずえ 小尾 静枝	地域特性[健康づくり]	区長推薦				○
かじ ひさお 梶 久夫	産業振興分野	セレサ川崎農業協同組合 ※平成28年3月末まで在籍			○	
かねみつ ひでなお 金光 秀尚	市民活動団体	区長推薦	委員長	○	○	
しむら せつこ 志村 節子	地域特性[地域資源活用]	区長推薦			○	
しらい いさむ 白井 勇	地域特性[まちづくり]	区長推薦		○	部会長	
すがの あきら 菅野 明	文化、観光分野	麻生区文化協会	副委員長	副部会長	○	
たかくら ひでとし 高倉 秀敏	公募	公募		部会長		○
たかはし かつじ 高橋 克司	地域特性[6大学連携]	区長推薦			○	
たかはし けいこ 高橋 慶子	市民自治分野	麻生区町会連合会		○		副部会長
はやし えみ 林 恵美	公募	公募		○		○
みやもと よしお 宮本 善夫	福祉、健康分野	麻生区社会福祉協議会				○
やまだ やすゆき 山田 安之	教育、子育て分野	麻生区地域教育会議			○	
よこた ゆたか 横田 豊	防災、防犯分野	麻生防火協会				○
よしがき きみこ 吉垣 君子	地域特性[児童・地域福祉]	区長推薦			○	

【区民会議参与】

(五十音順・敬称略)

氏名	区分	会派	備考
あまがき ゆうじ 雨笠 裕治	市議会議員	民主みらい	
おいぬま じゆん 老沼 純	市議会議員	自民党	H27. 4~
かつまた みつえ 勝又 光江	市議会議員	共産党	
こば りかこ 木庭 理香子	市議会議員	民主みらい	
つきもと たくや 月本 琢也	市議会議員	無所属	
はなわ こういち 花輪 孝一	市議会議員	公明党	
やまざき なおふみ 山崎 直史	市議会議員	自民党	
おさく ひとし 尾作 均	元市議会議員	自民党	H26. 7~H26. 10
あいほら たかひろ 相原 高広	県議会議員	県政会	
いしかわ ひろのり 石川 裕憲	県議会議員	かながわ民進党	H27. 4~
よしだ たいせい 吉田 大成	元県議会議員	新生・かながわクラブ	H26. 7~H26. 11

第5期区民会議スケジュール

	企画部会	若い世代が住みやすいまちづくり部会	市民活動・地域活動の活性化部会
平成26年度	7月	区民会議勉強会 7月28日(月)	
	8月	第1回全体会議 8月4日(月)	
	9月		
	10月	第1回 企画部会(全員参加型のグループワーク) 10月10日(金)	
	11月	第2回全体会議 11月21日(金)	
	12月	第1回 12月15日(月)	第1回 12月16日(火)
	1月	第2回 1月19日(月)	第2回 1月20日(火)
	2月	第3回 2月6日(金)	第3回 2月17日(火)
	3月	第3回全体会議 3月2日(月)午後3時～	
		第4回 3月6日(金)	第4回 3月17日(火)
平成27年度	4月	第5回 4月3日(金)	第5回 4月21日(火)
	5月	第6回 5月22日(金)	第6回 5月19日(火)
		第6回 6月5日(金)	
	6月	第4回全体会議 6月12日(金)午前10時～	
		第7回 6月26日(金)	第7回 6月16日(火)
	7月	第7回 7月3日(金)	第8回 7月21日(火)
		第8回 8月7日(金)	第9回 8月18日(火)
	8月	第5回全体会議 8月21日(金)午後3時～	
		第9回 8月28日(金)	
	9月	第9回 9月4日(金)	第10回 9月15日(火)
	10月	第10回 10月2日(金)	第11回 10月20日(火)
		第11回 11月6日(金)	
	11月	第6回全体会議 11月13日(金)午後3時～	
		第12回 11月27日(金)	第12回 11月17日(火)
	12月	第12回 12月4日(金)	第13回 12月15日(火)
	1月	第14回 1月20日(水)	第14回 1月19日(火)
		第13回 2月5日(金)	
	2月	第7回全体会議 2月12日(金)午後3時～	
			第15回 2月16日(火)
		区民会議フォーラム 2月21日(日)	
	第15回 2月26日(金)		
3月	第14回 3月4日(金)	第16回 3月15日(火)	
	■報告書素案確認		
4月	第15回 4月8日(金)		
	第16回 5月9日(月)		
5月	第8回全体会議 5月13日(金)午後3時～		
	第17回 6月3日(金)		
6月	■報告書提出		

第5期区民会議関連資料（若い世代が住みやすいまちづくり部会）

1. 提言の解決に向けた委員のアイデア集

1. 魅力の資源（種）を花開かせるためには？	2. 若い世代に魅力を知ってもらうためには？	3. 若い世代に魅力を伝えるために、各主体が連携していくには？
<p>・大学生が区民の個人宅に下宿する機が盛んにある。望み家になってからでは無く、高齢者世帯や独居老人の広い部屋がある個人宅に大学生が下宿出来るような仕組みづくりを行う</p> <p>① 麻生区は地区に例を見ない芸術・文化の活動が盛んである。こども支援の行っている行事だけでなく、地域振興課（麻生音楽祭他）、川崎市役所（芸術祭、アートセンター等）の情報を点から面で発信する</p>	<p>・その為に紹介窓口として不動産屋さんや地域のNPOなどを通してネットワークを作る</p> <p>・区役所のHPに業務を部署ごとだけでなく、活動別でも見られる情報発信を行う</p>	<p>・情報共有する為、大学、不動産屋さん、町会、NPO等のネットワークをつくり、常日ごろから連絡網を作り、災害時、緊急時にもそのネットワークを活用する。</p> <p>・区民会議の提案で実現した地域振興課が進めている「あさお芸術・文化交流カフェ」に集まっている多くの芸術・文化団体と役割を分担し連携する</p>
<p>② ストリート芸人による競演大会の開催 各地からストリート芸人を呼び寄せ麻生区内で芸の競演をしてもらう。観衆の投票により表彰する。</p> <p>③ あさおオリエンテERING大会の開催 自然の山野において、地図上に指定されたいくつかの地点（ポスト）を地図と磁石を用いて発見、通過し、できるだけ短時間でゴールまで到達することを競う競技。</p>	<p>① 子育てフェスタの継続開催 子育て世帯には絶大な人気があることが二回にわたる開催で実証できた。区内のみならず区外にも広く宣伝してあさおの「子育てフェスタ」の存在をアピールして麻生区の育児環境のよさを知ってもらうためのPRをしっかりと行う。</p> <p>② 麻生区の住環境の魅力（住環境、安全性、子育てしやすい、文化）を訴求できるポスターを作製したり、駅構内でテロップで流したり、小田急電鉄の車両内で吊り広告を出し小田急通勤者に麻生区の魅力のアピールする。 同時に同じ内容のものをブログやヤフーにのせて広く宣伝する。</p>	<p>① 麻生区内ではいろいろなイベントが開催されているが、主催責任部署がバラバラで統一性が見られない。麻生の魅力を創出していこうとする努力もあり見られぬが、訴求するポイントもバラバラで統一性がなく、そこで一度イベント関係者を一堂に集め麻生の魅力とは何か、イベントを通してどのように麻生の魅力を訴求していくのかを話し合う交流会のような会を区民会議で主催してみるのも一つのアイデアと考える。</p> <p>② イベントコーディネーターの設置 麻生区役所内にイベント関係に熟達したイベントコーディネーターを置き、イベントの調整役を務めてもらい、対外PRに統一性を持たせ麻生区の良いイメージアップにつなげていく。</p>
<p>③ 若い世代が「魅力の資源（種）」を花開かせる方法を考えてイベントなどの開催。6大学を中心に市（区民会議）が依頼し、調査検討をしてもらい、成果を発表するなど。</p>	<p>・各種イベントの広報において、区外の若い世代に向け、麻生区のシンボルとして「新百合ヶ丘」を活用する。</p> <p>・若い世代に魅力を知ってもらうには中学校高校大学に協力してもらい、学生や中高生が麻生区をどう感じているのか、どうすればいいのか意見を出してもらう。</p>	<p>・区外にPRをする際には、全ての主体が「新百合ヶ丘」という名称を積極的に利用する。その際「新百合ヶ丘」は具体的な駅名としてではなく、あくまでもブランドマークとする。</p>
<p>④ アウトドアのイベントを増やし、子供たちに里山での体験をするような企画を増やす。</p>	<p>・麻生区に住むか退職した保健師や看護師等に子育てサポーターとして活躍してもらう。</p> <p>・「こんにちは赤ちやん」訪問員の活動範囲を広げる。例えば、「近くに住む知人」として子育ての協力者になる等</p>	<p>・観光協会が主催の写真コンクールと他団体の写真コンクールを合体させ、目で見える麻生区の魅力印象付けの展示をHPにアップする。</p>
<p>⑤</p>	<p>・地域と区が連携して「寺家ふるさと村」みたいな場所を作り自然をアピールする。</p>	
<p>⑥</p>	<p>・麻生区の魅力を広げたいため、麻生区のイメージアーティストやPR大使等を任命する。</p>	

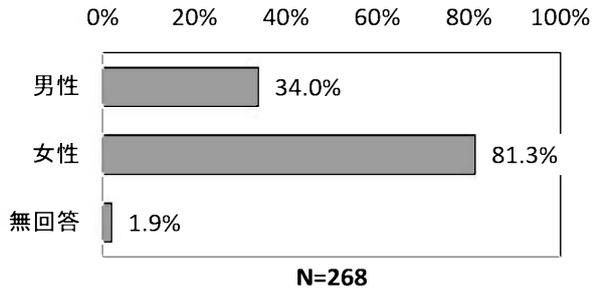
	<p>1. 魅力の資源(種)を花開かせるためには？</p> <p>○若い世代が麻生区の中でまず動いてもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存の事業(催し)には「あさおの魅力」を伝える活動が多く展開されている。 ・そこに子供と親の参加をより一層呼びかけていく。こどもの参加活動とさらに親の役割が盛り込まれるような企画が望まれる。 ・子どもを媒体?として若い世代を動員する。動いてこそ地域への意識を高める契機となる。能動的姿勢からの声は他、外に伝播する。 	<p>2. 若い世代に魅力を知ってもらうためには？</p> <p>「魅力の資源」を伝える事業・活動(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○緑・自然が多い <ul style="list-style-type: none"> ・里山フオーラムin麻生 ・菜の花プロジェクト ・里山ボランティア ○子育てしやすい <ul style="list-style-type: none"> ・子育てフェスタ ・子どもと一緒にのコンサート ・ミニたまゆり ・親子教室 ○芸術のまち <ul style="list-style-type: none"> ・アルテリッカしんゆり ・麻生音楽祭・映画祭 ・芸術のまちコンサート ・kitara@アートしんゆり ○まちづくりイベント <ul style="list-style-type: none"> ・区民まつり ・あさお福祉まつり ・しんゆりマルシェ ・しんゆりオリヅまつり ・観光協会の事業 	<p>3. 若い世代に魅力を伝えるために、各主体が連携していくには？</p> <p>「魅力資源」を伝えていく活動団体の企画・日程が一括して伝えられる拠点がつかれないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報伝播拠点を置く <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの開設 ・PRボードの設置 ・(新百合ヶ丘駅改札前のテロップは交渉できないか) ・(呼び込み)図版誌の作成 <p>※あさお記者クラブ やまゆりを拠点としての広報がありますが、どこまで範囲が広がるか?「麻生の魅力発信」する担当者を組織してはどうか(区と民、各団体は担当者派遣・情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人間関係が良い <ul style="list-style-type: none"> (小)地域で若い世代の活躍の場をつくる — 三世代の顔が見える —
<p>⑦</p>			
<p>⑧</p>	<p>提案に向けた検討のポイント</p> <p>社団法人麻生区開成町が取り組み推進してきた「ブランディング事業」(町の魅力を発信するプロジェクト)に参考にすべき点が多い</p>	<p>1)人口増加率が県内トップ 神奈川県西部地域で人口減少が続く中で、子育て世代を中心に人口の流入が続いている。</p> <p>2)開成町企画政策課が中心になり総合計画を策定し、重点課題(推進テーマ)として町の魅力を発信するプロジェクト「ブランディング事業(ブランディング戦略)」を盛り込んだ。</p> <p>3)事業のコンセプトとして「田舎モダン」を打ち出した。 《3つの魅力》</p> <ul style="list-style-type: none"> ①豊かな自然環境の中で生活(子育て)ができる。 ②住環境に恵まれている。持家可能。 ③小田急電鉄利用で都心(新宿、横浜)に出るのに極端に不便ではない。 <p>4)町全体を3つのエリアに分けて長期的、計画的に開発計画を進めてきた。 北部地域:自然、農村の風景を大切に 中部地域:都市機能を集める 南部地域:住宅区域</p> <p>5)子育て世代流入・人口増(実現)の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ①駅周辺再開発事業として小田急不動産中心にマンション建設が続いてきている事。 ②南部地域中心に区画整理事業を昨年5月完了。広大な宅地(戸建)を確保 ③子育て世代人口増に備え小学校1校を新設 <p>6)若い世代に魅力を知ってもらうPR方策。“ゆるキャラ”と一緒に町全体でイベントをやリ魅力を発信。</p>	

2. 第2回あさお子育てフェスタアンケート集計結果

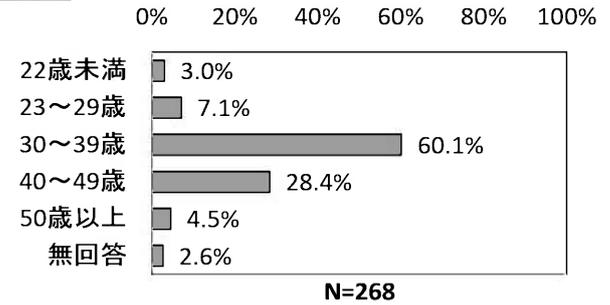
回答者数: 268人

問1. 参加された大人の方について(複数回答可)

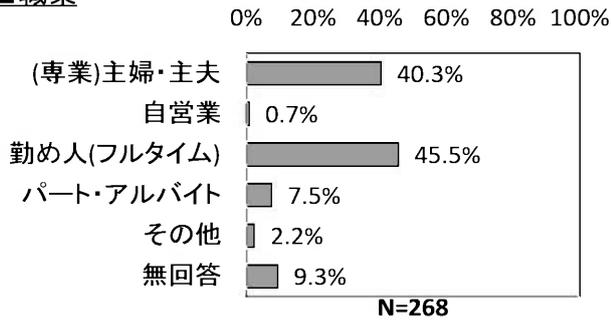
■性別



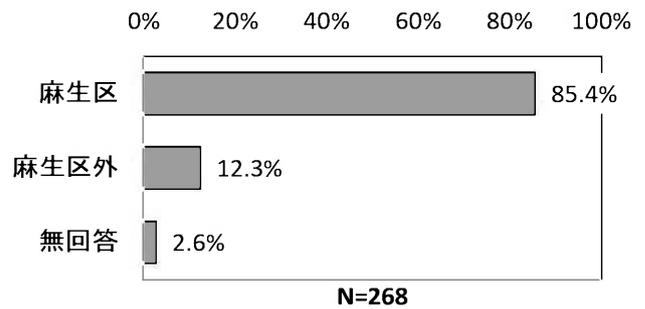
■年齢



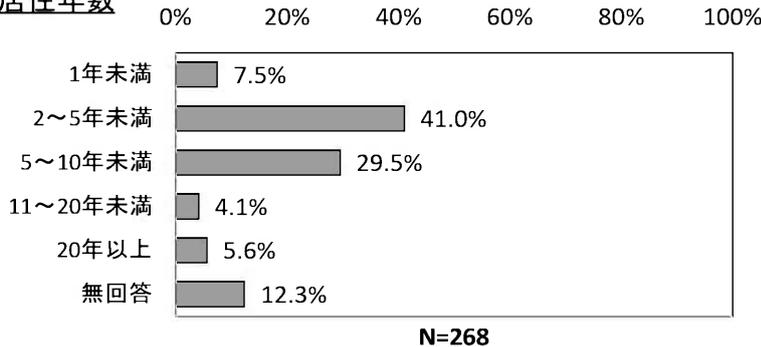
■職業



■居住地

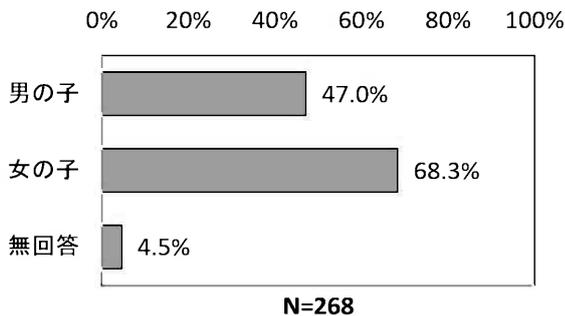


■居住年数

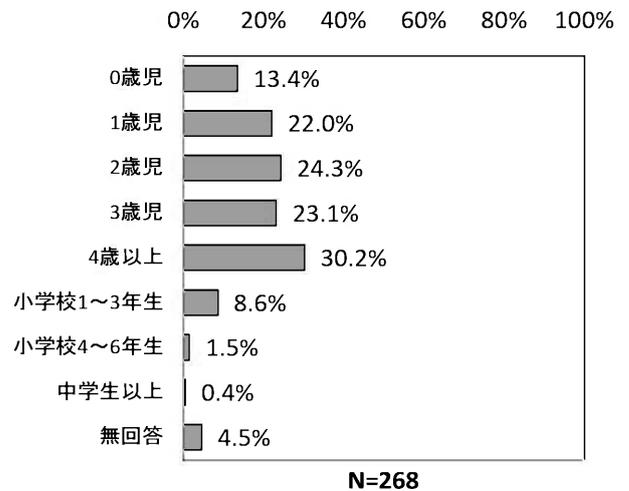


問2. 参加されたお子さんについて教えてください(複数回答可)

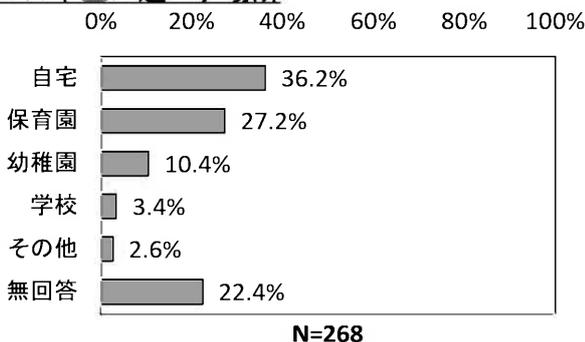
■性別



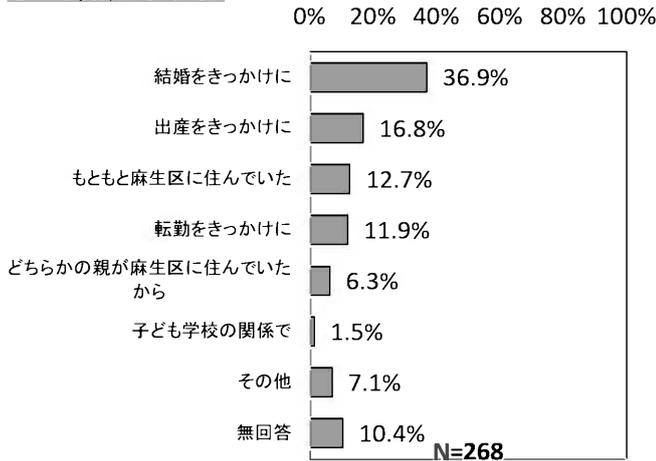
■年齢



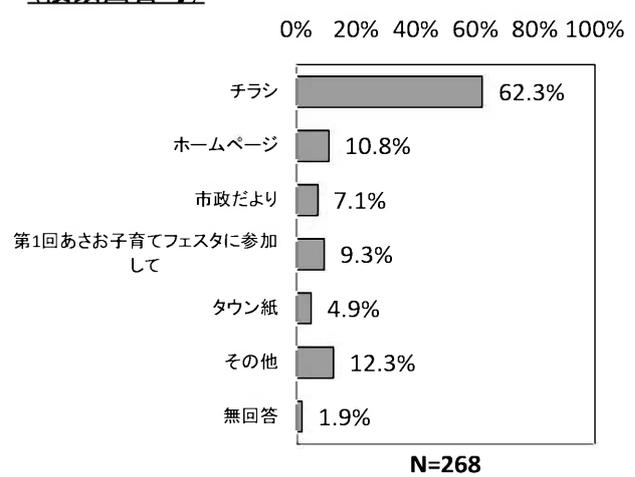
■日中主に過ごす場所



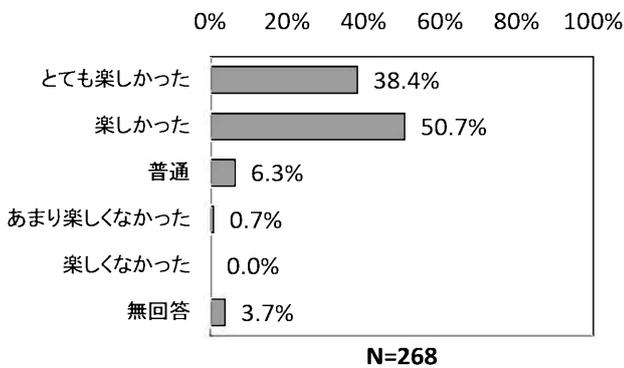
問3. 麻生区に住むことになった経緯について教えてください(複数回答可)



問4. 「あさ子育てフェスタ」を何で知りましたか？(複数回答可)



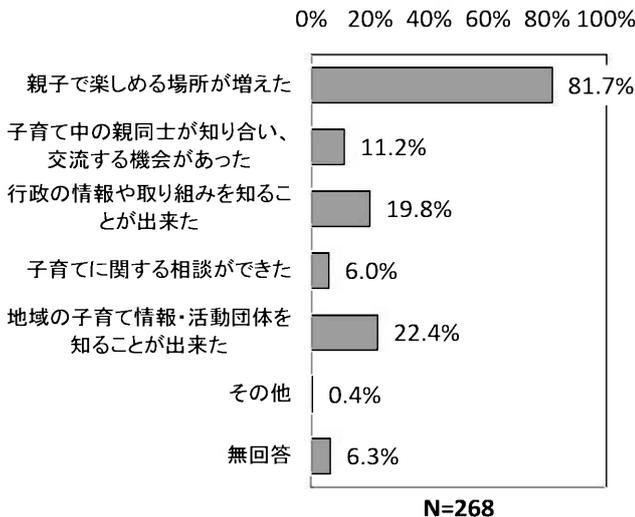
問5. 「あさ子育てフェスタ」の感想をご記入ください。



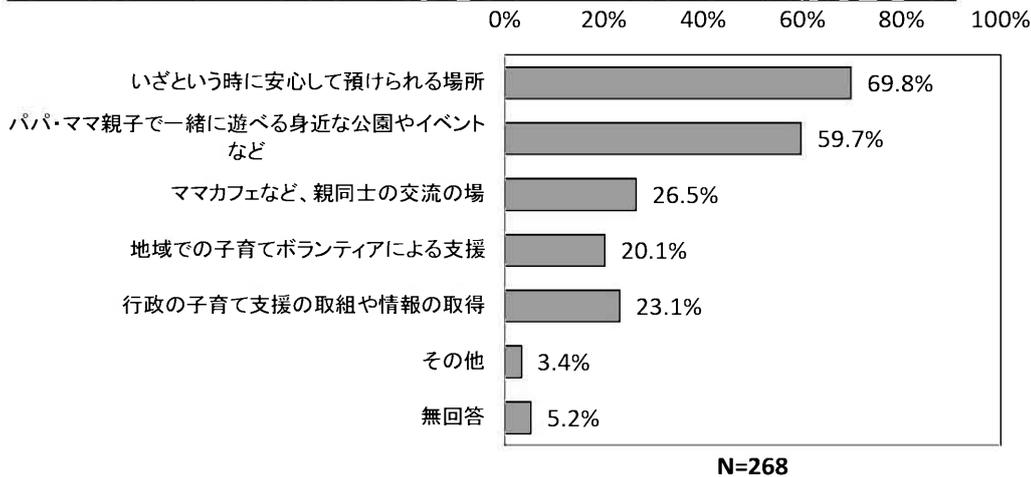
問6. どのコーナーがよかったですか？

フリーマーケット	56
クラフト(工作)コーナー	35
ミニコンサート	27
おもちゃコーナー	22
子育てフリースペース【拡大版】	17
お料理教室	12
作品展	12
人形劇・指人形	11
木の車	10
英語とリトミック	6
相談コーナー・歯科相談	5
パネルシアター	5
赤ちゃん学	4
自遊学館・つみき	4
手作りコーナー	4
麻生プレーパークを創る会	3
各保育ブース	3
子供向け展示	3
バルーンで遊ぼう	3
遊びの広場	2
お絵かき	2
自由工作	2
体験コーナー	1
お話し	1
おもちゃ売り場	1
おもちゃ病院	1
買い物ごっこ	1
活動紹介	1
子どもが楽しんでいたコーナー	1
情報コーナー	1
幼稚園の紹介	1
柿生保育園の先生の雰囲気がとても良かった	1
来場が遅かったのでも来たときには色々終わっていて残念でした。(カキマル)君に会えて娘が嬉しそうにしていたのでよかったです。	1
子どもが遊べるコーナー	1
保育園の紹介	1

問7. あなたは、「あさ子育てフェスタ」でどのようなことができたと感じましたか。(複数回答可)

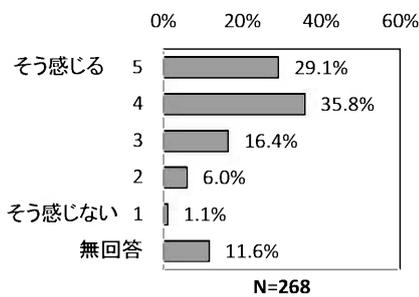


問8. 子育てにおいて、今もっとも必要なもの・ことは何ですか。(複数回答可)

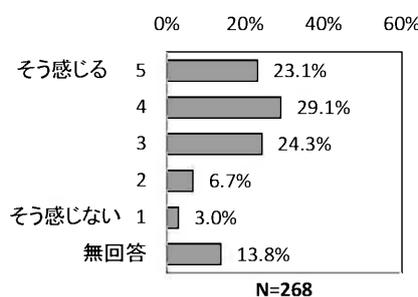


問9. 実際に麻生区に住んでみて、麻生区の何を魅力として感じていますか？

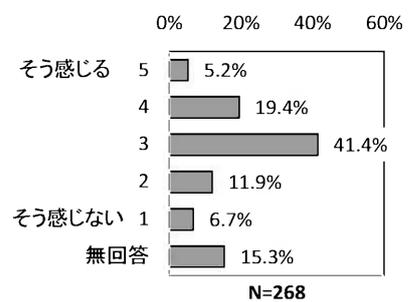
■交通が便利



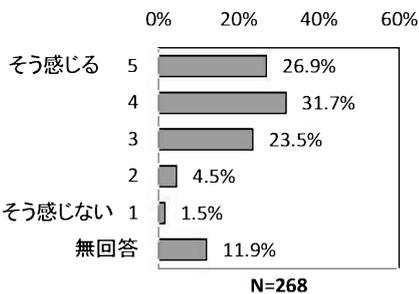
■通勤に便利



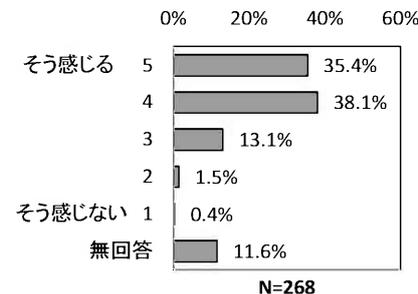
■地域で仕事しやすい



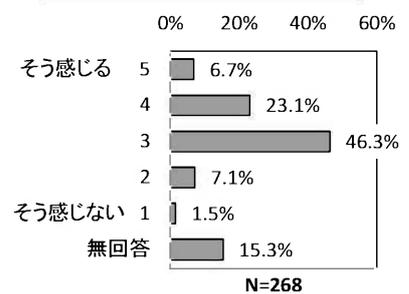
■買い物が便利



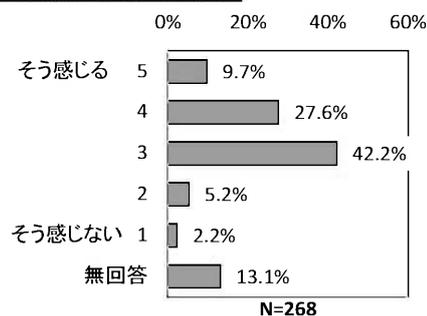
■緑が多い



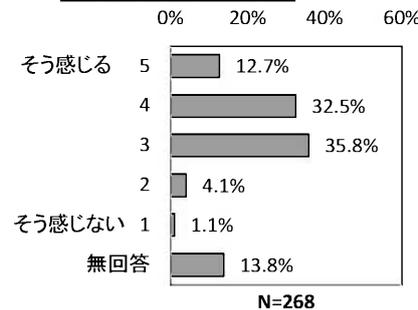
■沿線に私立学校が多い



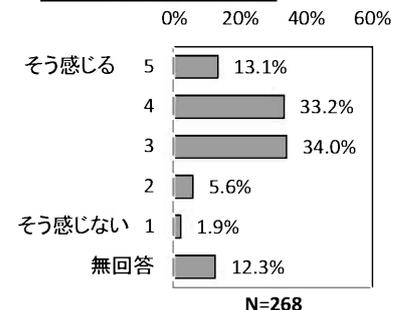
■学校に通いやすい



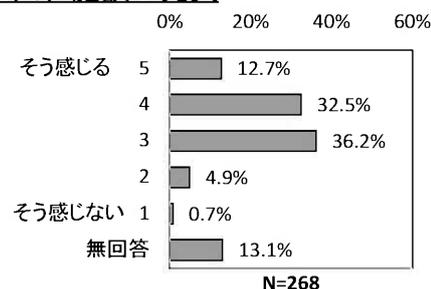
■教育水準が高い



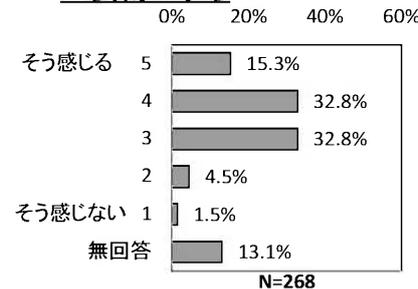
■医療施設が充実



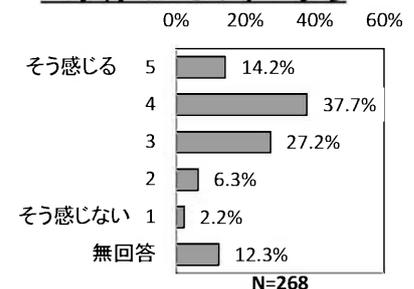
■文化施設が充実



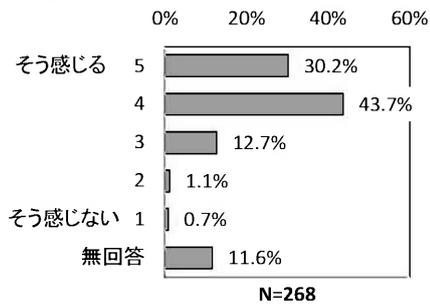
■芸術のまち



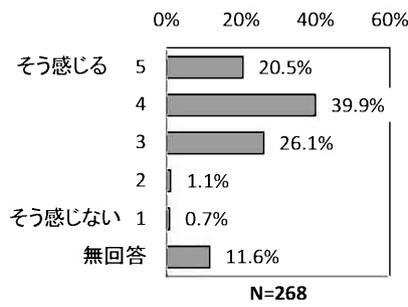
■子育てがしやすいまち



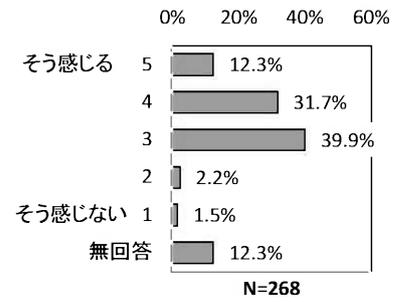
■ 治安が良い



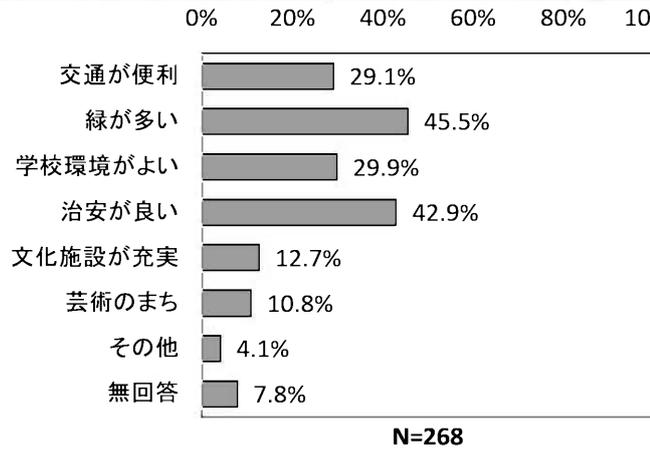
■ 地域の間人間関係が良い



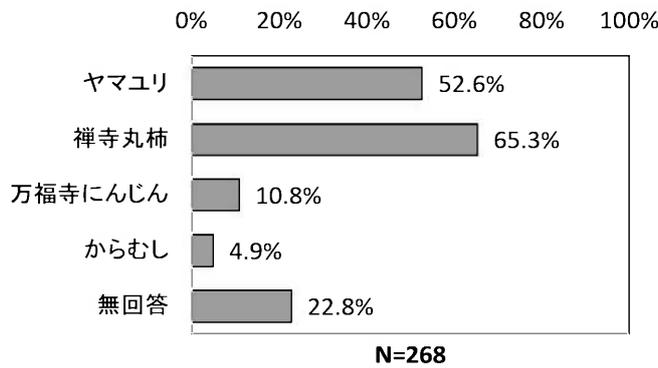
■ コミュニティ活動が盛んなまち



問10. 子育て世代を呼び込むため、麻生区にある魅力の中で、さらに何をPRしたらよいですか？



麻生区に縁のある植物・農作物について、次のうち知っているものがあつたらチェックをお願いします。
(複数回答可)



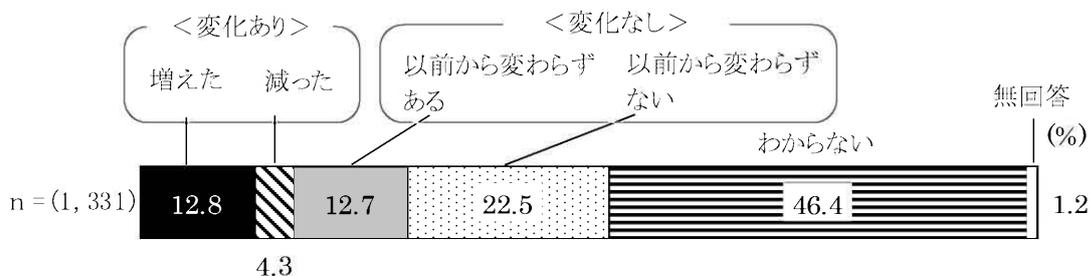
3. 平成27年度第1回かわさき市民アンケート 一部抜粋

3-5 近隣での空き家の状況変化

◎「増えた」が12.8%、「減った」が4.3%で<変化あり>が17.1%

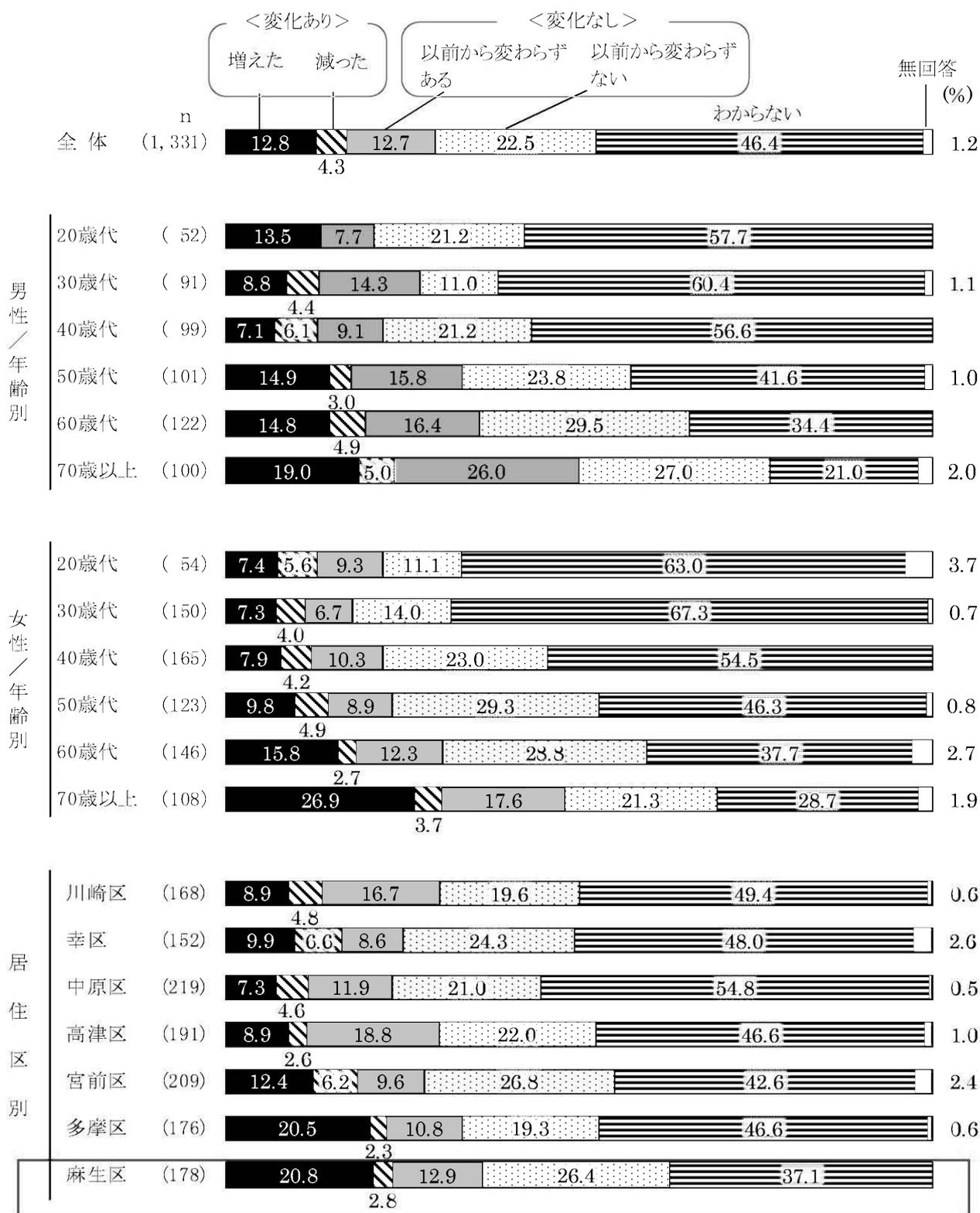
問19 あなたのお住いの近隣で、この数年間、空き家が増えたと思いますか。(〇は1つだけ)

図表3-9 近隣での空き家の状況変化



この数年で、近隣に空き家が増えたと思うかについて、「増えた」は12.8%、「減った」は4.3%となっており、「増えた」、「減った」を合わせた<変化あり>は、17.1%となっている。また、「以前から変わらずある」は12.7%、「以前から変わらずない」は22.5%となっており、「以前から変わらずある」と「以前から変わらずない」を合わせた<変化なし>は、35.2%となっている。

図表3-10 近隣での空き家の状況変化（性／年齢別・居住区別）



性／年齢別では、性別、年齢を問わず、「増えた」が「減った」を上回っている。また、性別を問わず、各年代とも、<変化なし>が<変化あり>を上回っている。

居住区別では、「増えた」が麻生区(20.8%)、多摩区(20.5%)で2割を超えている。また、全ての区で「増えた」が「減った」を上回っている。一方、各区とも、<変化なし>が<変化あり>を上回っている。

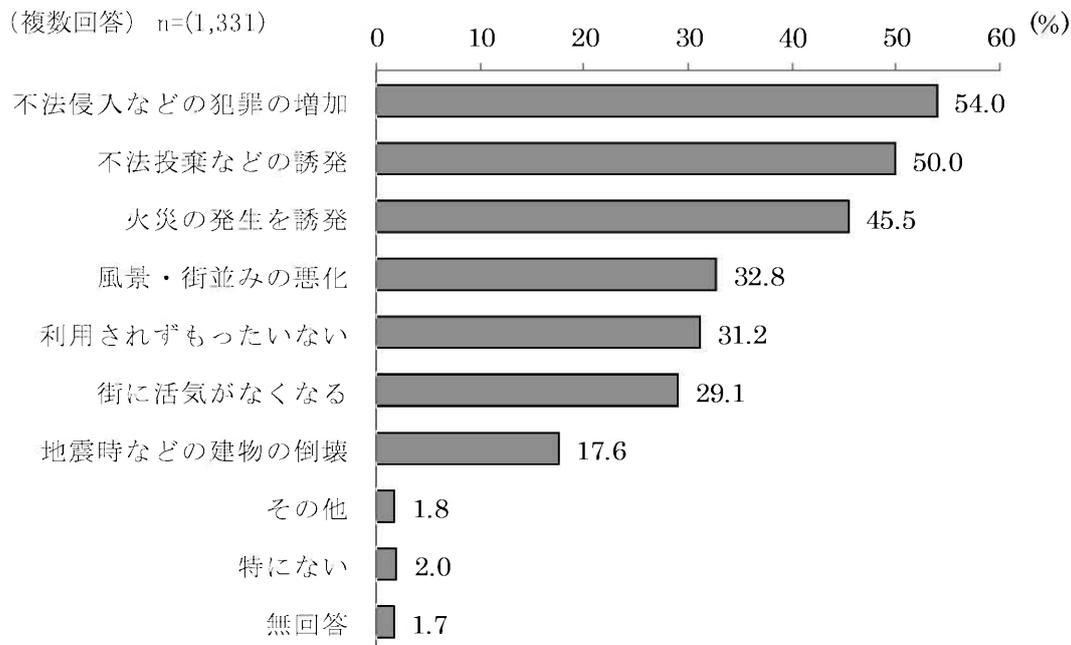
3-6 空き家の存在により生じる問題

◎「不法侵入などの犯罪の増加」が54.0%

問 20 あなたは空き家が存在することにより、どのような問題が生じると思いますか。

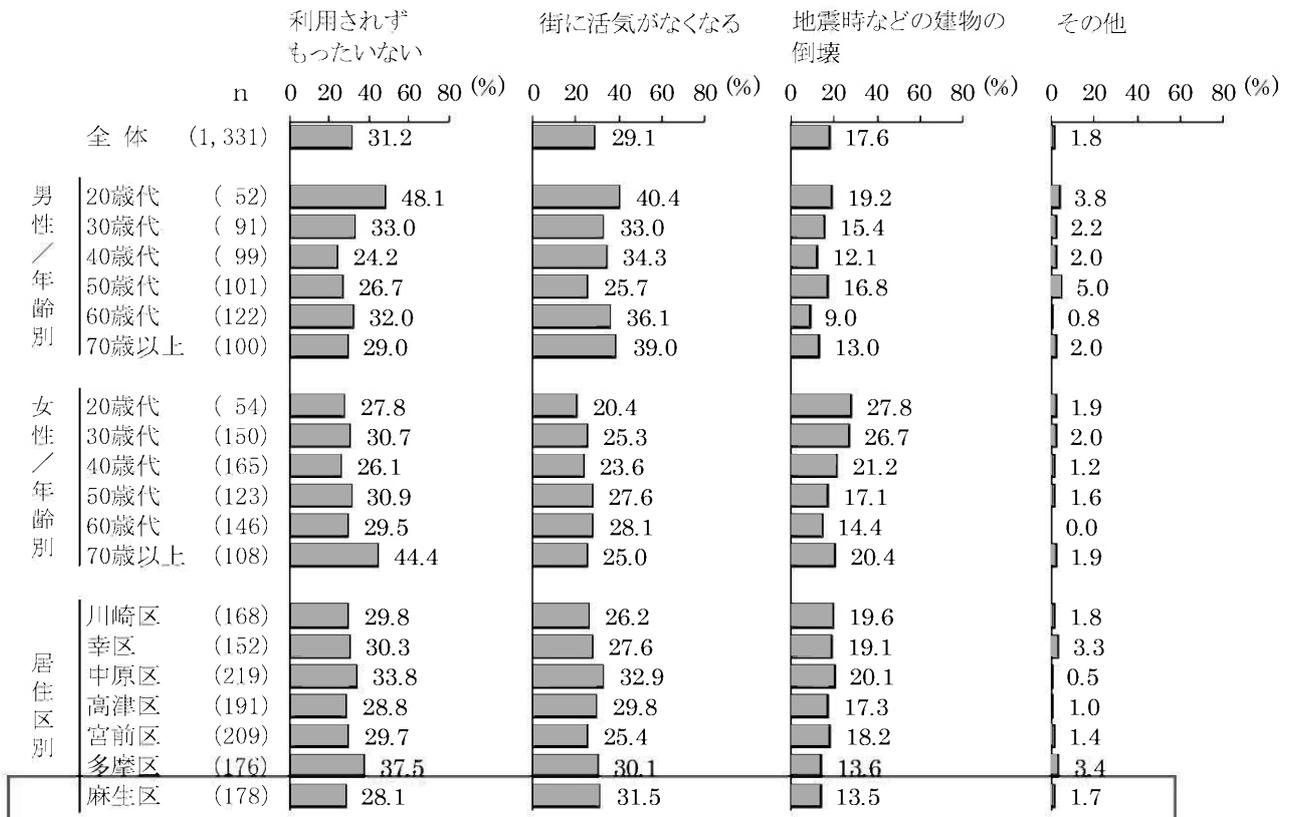
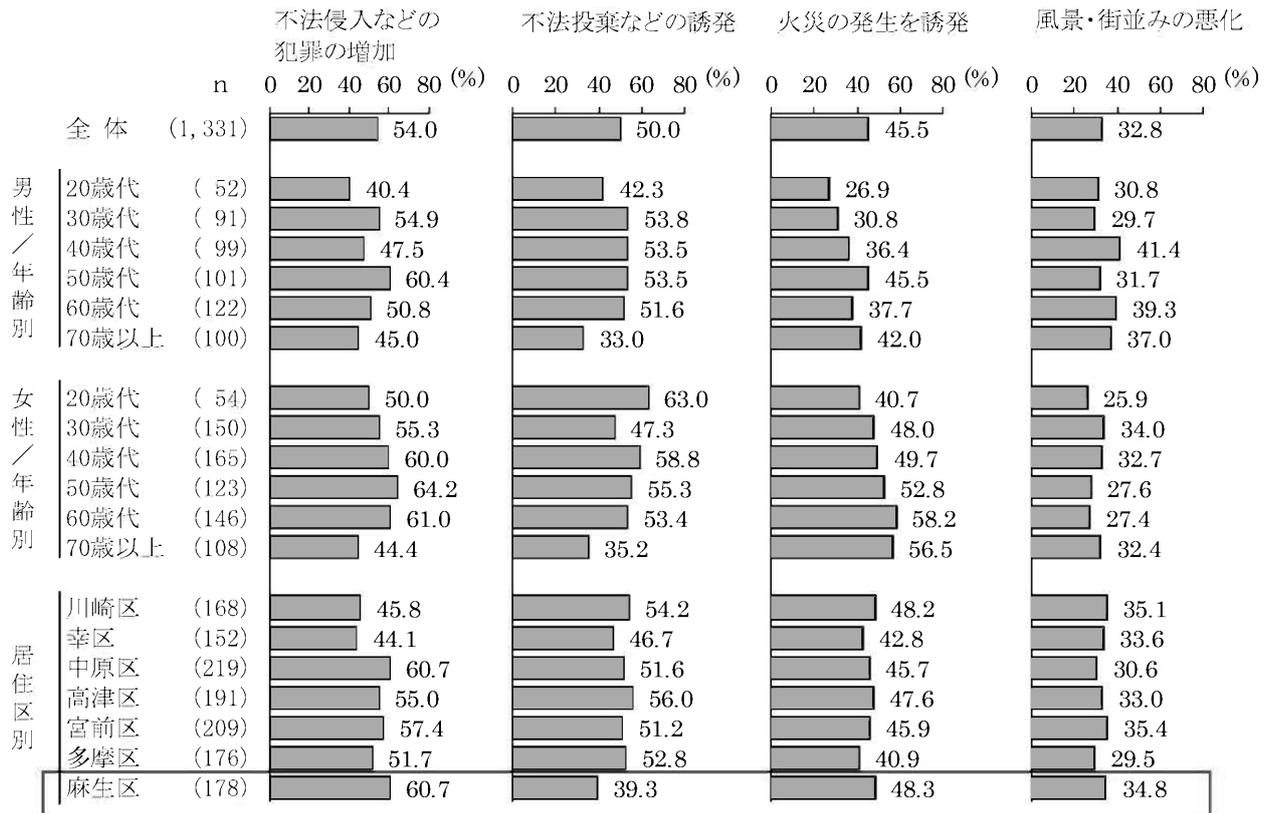
(あてはまるもの3つまでに○)

図表 3-11 空き家の存在により生じる問題



空き家が存在することにより生じる問題については、「不法侵入などの犯罪の増加」(54.0%)が最も高く、次いで、「不法投棄などの誘発」(50.0%)、「火災の発生を誘発」(45.5%)の順となっている。

図表3-12 空き家の存在により生じる問題（性／年齢別・居住区別 上位8項目）



性／年齢別では、「不法侵入などの犯罪の増加」では、男女とも50歳代で6割台と最も高い。「不法投棄の誘発」では、男女とも40歳代～60歳代で5割を超えている。

居住区別では、「不法侵入などの犯罪の増加」が中原区（60.7%）や麻生区（60.7%）で6割台にのびている。

3-7 空き家対策に必要なこと

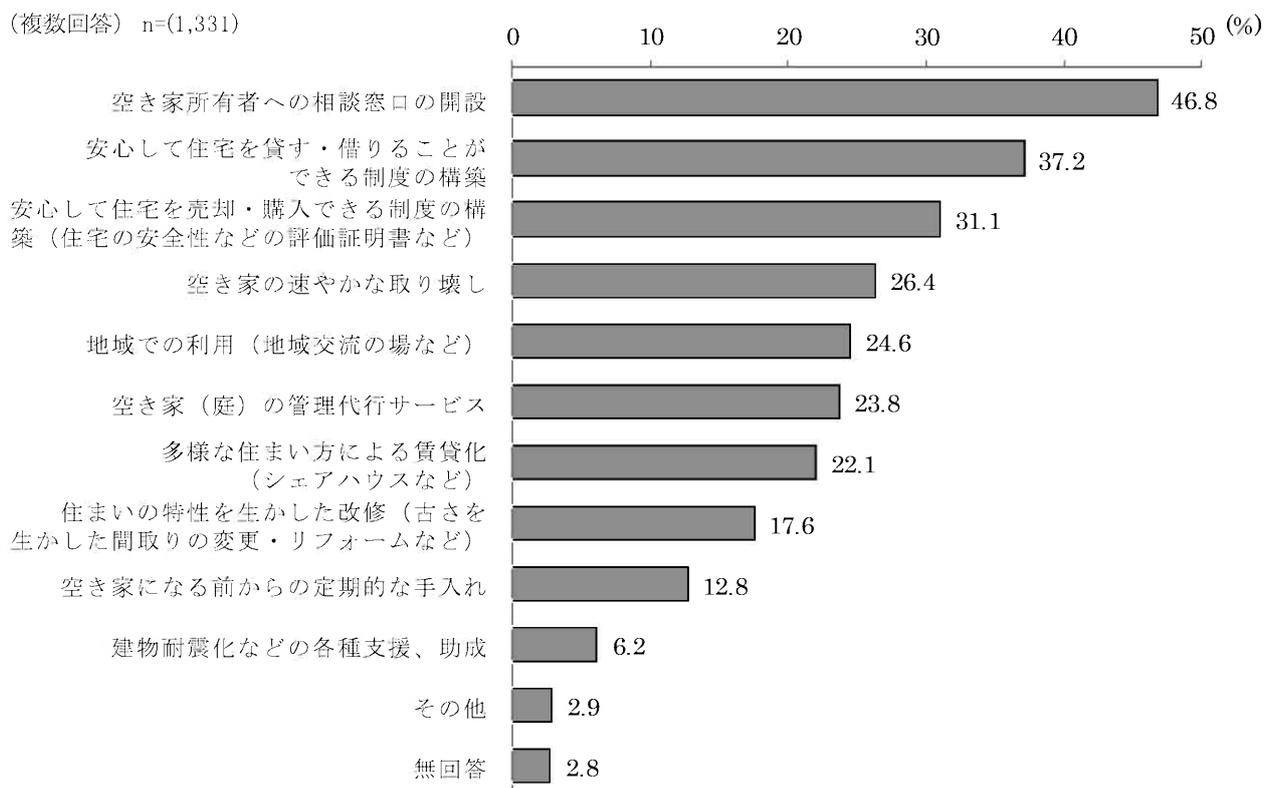
◎「空き家所有者への相談窓口の開設」が46.8%

問21 あなたは、空き家対策として、どのようなことが必要であると思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

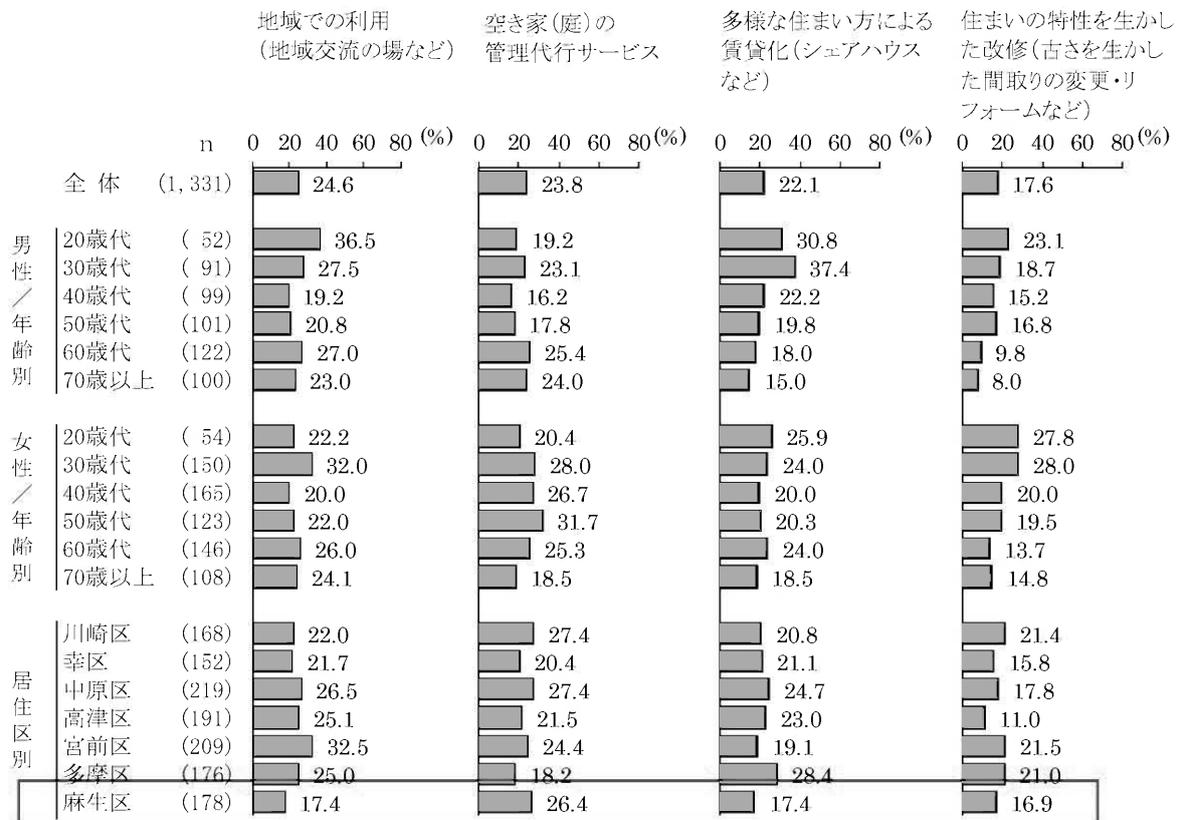
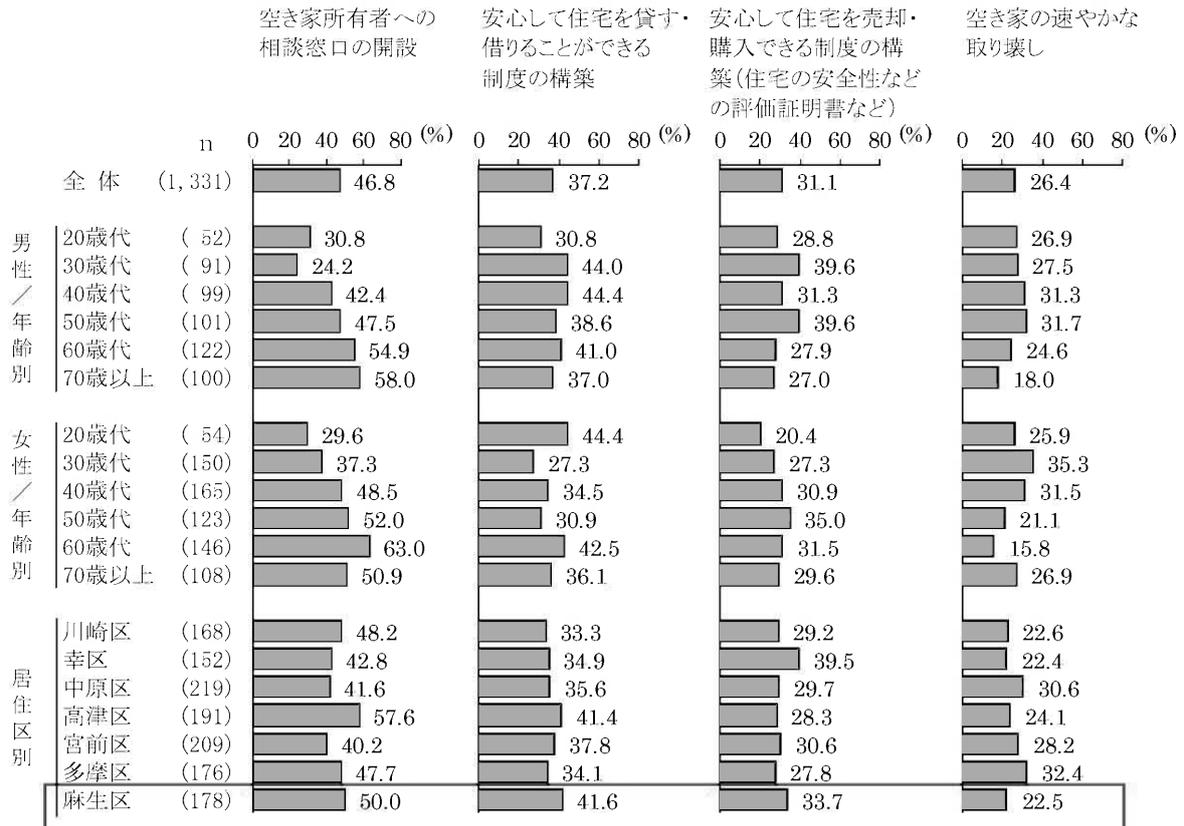
図表3-13 空き家対策に必要なこと

(複数回答) n=(1,331)



空き家対策として、必要であると思うことについては、「空き家所有者への相談窓口の開設」(46.8%)が最も高い。次いで、「安心して住宅を貸す・借りることができる制度の構築」(37.2%)、「安心して住宅を売却・購入できる制度の構築(住宅の安全性などの評価証明書など)」(31.1%)の順となっている。

図表3-14 空き家対策に必要なこと（性／年齢別・居住区別 上位8項目）



性／年齢別では、「空き家所有者への相談窓口の開設」では、男女とも年代が高くなるにつれ、割合が高くなる傾向にある。

居住区別では、「空き家所有者への相談窓口の開設」は、高津区（57.6%）及び麻生区（50.0%）で5割を超えている。

第5期区民会議関連資料（市民活動・地域活動の活性化部会）

4. 麻生老人福祉センターへの現地調査について（報告）

- 1 調査日時 平成27年9月10日 午前10時～11時30分
- 2 調査員 調査員 高橋（慶）委員、石川委員、宮本委員、岡倉委員
対応者 麻生老人福祉センター石川所長
- 3 施設概要 麻生老人福祉センター（いきいきセンター） 麻生区金程2-8-3
 - ・利用対象者は川崎市内60歳以上の方。
 - ・会議室、体育室、図書コーナー、風呂等を備えている。
 - ・各種講座、健康増進事業の他、発表会や大会など、様々な行事が開催されている。

4 調査結果

目的： 施設利用者がボランティア活動に興味を持ちやすい環境であるかどうかを把握し、利用者をボランティア活動へと促す方法を探る。

結果： 利用者はスポーツや講座等、何らかの目的を持って施設を訪れているので、他のこと（ボランティア活動）に関心が向きにくい環境であるが、ボランティア活動の魅力や、ボランティアを必要としている団体、相談窓口等の情報を提供することで、利用者の関心を引くきっかけにもなりうる。

感想： センターは、高齢者にとって市民館といこいの家の両方の機能を備えた理想的な居場所である。充実した設備とともに、職員のきめ細やかな対応によって、仲間と好きな活動ができる環境が整っている。

調査項目	聞き取り結果
1 区における高齢者の居場所づくりとしてのセンターの位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきセンターは各区に1ヶ所設置されている。 ・麻生区では、老人いこいの家と共に麻生区社会福祉協議会が運営している。情報共有を図りながら、それぞれ独立して運営している。
2 ボランティア関係のチラシの配布は有効か	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動のために訪れている利用者が多く、他のことに関心を持ってもらうことは難しい。しかし、利用者の中には、ボランティア活動を実際に行っている方もいる。 ・センターの行事の周知は、大きな掲示板の他、各部屋の入口にも小さいチラシを貼っている。少しでも知ってもらうように利用者の動線上に掲示している。 ・センター以外のチラシは、①地域のつながりのあるもの（町内会や地域のデイサービスなど）、②センター事業に関連のあるもの（福祉関係のボランティア資料も）を置いている。置き場所は、長机一脚である。
3 ボランティア活動を推進するには、どのような仕掛けが必要か	<ul style="list-style-type: none"> ・活動団体が必要としているボランティアの情報をタイムリーに提供できるマッチングの仕組みがあるとよいのではないかと。関心を持った人に対してタイミングよく情報を提供することが重要である。 ・活動団体の運営には、様々な役割が必要である。たとえ専門的な知識がなくても、一緒に活動ができることを知ってもらうことが必要である。
4 新たな団体は、どのようにできるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの利用促進を図るために、初心者を対象とした各講座を前期（4月～）と後期（10月～）に分けて開催している。講座修了時に、登録団体が受講生を勧誘している。仲間意識、技量の差等から新しいグループができることもある。
5 センターの利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の利用者数は、一日当たり149人/日。区外の方も利用している。 ・登録団体は、現在、52団体である。会議室、体育室等の利用は、ほぼ満杯であるので、分野毎に登録団体数を制限している。（実際に訪問した当日は、雨が降っていたのにも関わらず、大勢の方が利用していた。）
6 センターの利用促進にあたっての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者を60才以上の方としていることから、センターのPRにあたって、チラシ等をどこにでも置けないという、難しい面がある。

5. 世田谷ボランティアセンターの現地調査について（報告）

- 1 調査日時 平成27年12月10日（木） 午後1時30分～3時30分
- 2 参加者 石井委員、石川委員、小尾委員、林委員、宮本委員、岡倉委員
対応者 世田谷ボランティアセンター高橋祐孝職員（相談担当）
- 3 施設概要 世田谷ボランティアセンター 世田谷区下馬2-20-14
社会福祉法人 世田谷ボランティア協会が運営。1981年10月設立。第二種社会福祉事業の他、公益事業として、ボランティア・市民活動推進事業を実施している。
- 4 調査結果

目的 30年を超えるボランティアセンターの運営から、提言に向けてのヒントを学ぶこと

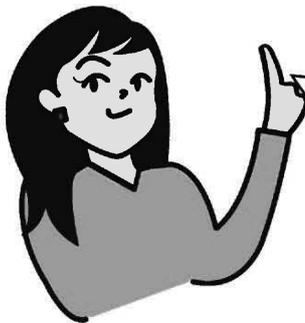
結果 ボランティアセンターと3カ所の地域の拠点（ビューロー）で、バザーの収益金や寄付金などの自主財源と地域のネットワークを活用し、ボランティア活動に関する様々な事業を区内に定着させている。相談窓口の他、人と団体を繋げる仕組みの「おたがいさまbank」等の運営や、情報誌「セボネ」を発行している。

感想 世田谷区はボランティアが生活の中に溶け込んでいるようだ。ボランティアセンターに行けばやりたいことが見つかる環境が整っている。市民団体にとっても、かゆいところに手が届く運営をしている。アットホームな空間で居心地がよい。

項目	聞き取り結果
1 センターの概要 位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・世田谷には、戦後、市民グループのネットワークが育ってきた素地がある。 ・区内の中間支援組織として、世田谷区のボランティアに関することは、センターが相談窓口になっている。 ・世田谷区は、7つの中間支援組織との情報交換の場として、世田谷市民活動支援会議を設けている。
2 ボランティアコーディネーター事業	<p>【相談窓口】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの施設に相談窓口があり、ボランティアコーディネーター（職員）が相談に応じている。コーディネーターは原則として面談により、一人ひとりにあった活動や団体の紹介に努めている。また、勤め人や学生も利用できるように、ボランティアセンターでは平日（一部）の夜間も窓口を開いている。 ・コーディネーターでは、ボランティアを求めている人と活動したい人をつなぎ、双方が納得し安心してかかわることができるよう調整するために、相談者が求めるボランティア、ボランティアがやりたいと思う活動を丁寧に聴きとるように心がけている。その情報をもとにミスマッチが起きないように慎重に、しかし時には思いきって活動者をサポートする。 <p>【おたがいさまbank】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランタリーライフ（ふだんの暮らしのなかで“おもしろい生活”を楽しむこと）を始めたい区民が、連絡先や「自分ができること」等を登録すると、その後、様々な情報が届き、自分がこれだと思えるものに参加することができる。 ・活動を希望する場合は一度センターに来所して話をうかがうように工夫しており、特に個人を対象にした活動の場合は直接つなげてはいない。ボランティアの受入れに不安のないグループ・団体とは直接つながってもらい場合もある。個人が対象の活動は、センターが責任をもってコーディネーターすることを基本としている。 <p>【情報誌セボネ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報誌「セボネ」は、毎月4、500部発行している。
3 ボランティア活動の促進策	<ul style="list-style-type: none"> ・協会を拠点にして、繋がりを大事にしながら、プレーパーク、チャイルドライン、せたがや災害ボランティアセンターなど、その時々地域の課題に挑戦してきた。さまざまな活動プログラムを活動者に提供しておたがいさまのコミュニティづくりを目指す。

ボランティア活動に参加して健康寿命を延ばしましょう！

ボランティアでストレス発散、仲間づくり、そして社会貢献
それがあなたの健康寿命を延ばします。



日本公衆衛生学会の論文では、ボランティア活動等に参加することにより、身体や精神面の健康が良くなる人が多いとされています。また、このような背景もあることから、東京都、横浜市、千葉市等では、高齢者のボランティア活動などの社会貢献活動への参加を進めています。

麻生区区民会議（市民活動・地域活動の活性化部会）

事務局：麻生区役所企画課（電話：044-965-5112）

7. 健康づくりのつどい 区民との意見交換の結果等について

問1 ボランティア活動に関心がありますか？

関心がある	男性	37	29.1%
	女性	75	59.1%
	計	112	88.2%
関心がない	男性	8	6.3%
	女性	7	5.5%
	計	15	11.8%

問2 ボランティア活動に参加したことがありますか？

参加したことがある	男性	30	25.4%
	女性	51	43.2%
	計	81	68.6%
参加したことがない	男性	12	10.2%
	女性	25	21.2%
	計	37	31.4%

問3 ボランティア活動に参加したきっかけは何ですか？

意見の整理	今後の検討のポイントになりそうなこと
◎友人に誘われた。お願いされたから。	・友人・知人から誘われるということが最も効果が高い。 ・その効果の活かし方について検討する必要がある。
○ボランティア団体に友人・知人がいたから。	
○活動に関する情報を見て、おもしろそうだったから。	・興味を引く、自分の興味がある活動があるということを知るための情報の出し方について検討する必要がある。
○そもそも興味がある活動だったから、活動に参加した。	
○自ら進んで参加した。	
○講座・体験等を受けて、参加したいと思ったから。	・区内で実際に開催されている講座を、多くの人に知ってもらう、来てもらう方法について検討する必要がある。
○広く受け入れる活動(震災ボランティア等)に参加したきっかけで。	・震災ボランティア等への参加が、ボランティアへの意識を変えるきっかけになる。
○時間ができたから。	・時間ができた人に対して、タイミングよく活動への参加を誘う仕組みについて検討する必要がある。

問4 (ボランティアに参加していない人に対し) どんなきっかけがあれば参加しますか?

意見の整理	今後の検討のポイントになりそうなこと
○時間ができれば、体調が良くなれば参加したい。(今は時間がない、体調が良くない)	・時間ができた人にタイミングよく参加を促す方法を検討する必要がある。
◎友人・知人に誘われれば参加したい。知人・友人が入っていれば参加したい。	・1人ではなかなか参加しにくい。 ・活動に参加している人が、知り合いに声をかける、かけたくなる仕組みや方法について検討する必要がある。
○健康によいものをやりたい。	・自分にあつた活動があることを知ってもらうため、情報の出し方について検討する必要がある。 ・今も実際に行われている活動について、さらに効果的に伝えるためには、どうすればよいか、検討する必要がある。
○どのようなボランティア活動があるのか等の情報がほしい。	
○自分にできることがあれば、活動に参加した。(自分にできることがあるのかどうかわからない)	
○興味がある活動があれば、気に入ったものがあれば参加したい。	
○新しい出会いがあるとよい。	・活動の楽しさ、みんなで活動する楽しさについてPRする必要がある。
○講座・勉強会等があれば参加したい。	・現在開催されている講座等について多くの人に知ってもらう必要がある。

問5. 気軽に参加できるようになるためには、何が必要だと思いますか?

意見の整理	今後の検討のポイントになりそうなこと
◎ボランティアに関する情報を得られやすくする必要がある。	・自分にあつた活動があるということを知ってもらうために、情報の出し方を検討する必要がある。
○自分の能力を活かせる活動、興味のある活動があることを分かりやすく示す。	
◎きっかけ、一歩背中を押してほしい、背中を押す仕組みが必要である。	・ボランティア活動に興味がある人は多いが、一歩が踏み出せない人も多い。 ・友人・知人の誘い等を活用し、背中を押す仕組みを検討することが考えられる。
○活動する時間にあまり縛られない、拘束されないようにする必要がある。	・ハードルが低い、ちょっとしたボランティア活動から参加を促すことが望まれる。
○時間があれば参加したい。	
○ボランティアについて相談できる場所があると良い	・現在も相談窓口はあるが、これを多くの人に知ってもらう、行きやすくする方法を検討する必要がある。
○人間関係等の問題に関わらないようにしたい。	・活動の楽しさ、みんなで活動する楽しさをPRする必要がある。
○活動の楽しさ、みんなで活動する楽しさをPRする必要がある。	

麻生区区民会議ニュース

第5期 Vol.1

発行/麻生区区民会議 編集/企画部会
事務局/麻生区役所まちづくり推進部企画課
電話：965-5112 FAX:965-5200 E-mail:73kikaku@city.kawasaki.jp

平成 27年3月16日発行



第5期審議テーマが決まりました!

区民会議は、暮らしやすい地域社会を目指して、区民の皆さんの参加と協働により、地域社会の課題をみつけ、解決するため調査・審議をする会議です。麻生区では2006年7月にスタートし、今期で第5期目を迎え、委員の任期は2年間です。

第5期では、少子高齢化・人口減少などの課題を踏まえ、暮らしやすく魅力あるまちづくり、市民主体のまちづくりなどについて話し合った結果、次の2つの審議テーマを選びました。

今後、20人の委員は、調査・審議を効果的に行うため、テーマごとの2つの部会に分かれ、区民の皆さまからのご意見・ご提案もいただきながら、審議結果をまとめる区長に報告します。

審議テーマ

若い世代が住みやすいまちづくり部会

12月15日に第1回部会、1月30日に第2回部会を開催して、審議テーマとして、「若い世代が住みやすいまちづくり」として、解決策を検討することにしました。



第1回全体会議の様子

市民活動・地域活動の活性化部会

12月16日に第1回部会、1月20日に第2回部会を開催して、審議テーマとして、「市民活動・地域活動の活性化」として、解決策を検討することにしました。



審議テーマ検討の様子

第5期麻生区区民会議委員(所属部会別)

「若い世代が住みやすいまちづくり部会」	「市民活動・地域活動の活性化部会」
石井 和朗 (区長推薦)	石井 よし子 (里山フオーラム in 麻生)
○上野 博之 (公募委員)	石川 和香子 (公募委員)
榎 久夫 (セレカ川崎農業協同組合)	榎木 昌昭 (区長推薦)
金光 秀尚 (区長推薦)	◎岡倉 進 (公募委員)
志村 節子 (区長推薦)	小尾 幹枝 (区長推薦)
◎白井 勇 (区長推薦)	高倉 秀敏 (公募委員)
菅野 明 (麻生区文化協会)	○高橋 慶子 (麻生区町会連合会)
高橋 克司 (区長推薦)	林 恵美 (公募委員)
山田 安之 (麻生区地域教育会議)	宮本 晋夫 (麻生区社会福祉協議会)
吉垣 君子 (区長推薦)	横田 豊 (麻生防火協会)
◎二部会長 ○二副部長	(敬称略・50音順)

第4期麻生区区民会議の提言を受けての取り組み

第4期(2012年7月1日~2014年6月30日)麻生区区民会議の提言を受けての取組を紹介いたします。

●家具転倒防止対策パンフレットの発行

第4期区民会議では、「安全・安心のまちづくり部会」において、各家庭が家具転倒防止に取り組む必要性についての検討がなされ、方法の一つとしてモデル事業の成果を活かした「自分でできる家具転倒防止対策パンフレット」の作成、配布が提言されました。これを受けて、麻生区役所はパンフレットを作成し、区役所企画課窓口及び2階ロビー等で配布しています。さらに、家具転倒防止用の器具が体験できるコーナーが、2階ロビーに設けられています。ぜひ、手にとってご覧ください!



●あさお子育てフェスタの開催

「若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会」において提言された「あさお子育てフェスタ」を契機とした地域の子育て支援体制の構築として、麻生区役所では、第4期区民会議委員の協力も得て、あさお子育てフェスタを開催することになりました。詳細につきましてはは後日広報します。

日時：平成27年9月13日(日) 午前10時~午後3時
場所：麻生区役所、麻生市民館、区役所前広場



審議テーマについてのご意見・ご提案・ご要望をお寄せいただけますよう、お願いいたします。この用紙をFAX、郵送又は直接区役所へご持参いただくか、Eメール(様式は問いません)でお願いいたします。

第5期区民会議事務局(麻生区役所企画課)あて

(FAX 044-965-5200、Eメール: 73kikaku@city.kawasaki.jp)

※この用紙は、下記、区役所HP(区民会議)からダウンロードすることもできます。

URL: <http://www.city.kawasaki.jp/asao/page/0000041065.htm>

1. テーマ「若い世代が住みやすいまちづくり」について

2. テーマ「市民活動・地域活動の活性化」について

~ご自身についてお答え下さい(それぞれに○をお願いします)~

- ① 住所 麻生区内 () 町 () 市 区 ()
- ② 年齢 20歳未満 ・ 20~29歳 ・ 30~39歳 ・ 40~49歳 ・ 50~59歳
60~69歳 ・ 70~79歳 ・ 80歳以上



発行/麻生区市民会議 編集/企画部会
事務局/麻生区役所まちづくり推進部企画課
電話：965-5112 FAX：965-5200 Eメール：73kikaku@city.kawasaki.jp

地域課題の解決に向けて 調査・審議を進めています！

平成 26年 7月にスタートした第5期区民会議は、少子高齢化や人口減少などの課題を踏まえ、「若い世代が住みやすいまちづくり」と「市民活動・地域活動の活性化」の二つをテーマとして、調査・審議を進めています。

平成 27年 6月 12日に開催した第4回全体会議において、二つのテーマに共通する全体テーマを『心ががよ魅力あるまち あさお』として審議することにしました。
引き続き、課題解決に向けて、皆様へのヒアリングやアンケート調査など、より実践的な取組みについて、委員が一丸となって調査活動を進めてまいりますので、ご協力をお願いします。

▼若い世代が住みやすいまちづくり部会

「若い世代が住みやすいまちづくり部会」では、①子育て世代の人たちが麻生区に移り住んでくると「麻生区の魅力のブランド化とPR」②若者への「空き家の利活用」③若者カフェや子ども運とその親などが集う「場」づくりの3つの具体的なテーマを設けて、調査・審議していきます。

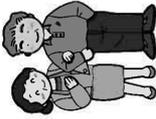
主な意見から

- 1 麻生区の魅力のブランド化とPR
 - ・子育て世帯を増やした千葉県流山市の重点施策が参考になる。
 - ・区の魅力は、「安全で便利で学生が住みやすいまち」、「芸術のまち」である。
 - ・麻生区に在住してもらうには、「今すぐにもっている良さを更に掘り起こす」「区民にプラスのことを新たに提案して作り出す」ことが必要である。
 - ・共働世代をターゲットに、女性が働きやすい環境や自然の豊かななどのブランドイメージを作り上げる。
- 2 空き家の利活用
 - ・区内・近隣にある大学の学生向けに、高齢化で出てきた空き家をシェアハウスとして活用が考えられないか。
 - ・行政等の取組みを精査し、既存の取組みとの整合・連携が必要ではないか。
 - ・NPOの立ち上げや不動産業者との連携が考えられないか。
- 3 子ども運とその親などが集う「場」づくり
 - ・子ども運とその親などが集う場（遊び場等）が必要ではないか。
 - ・若者カフェのような若者が交流できる場が考えられないか。



▼市民活動・地域活動の活性化部会

「市民活動・地域活動の活性化部会」では、委員の意見から緊急性と必要性を基準にして、最優先テーマ「ボランティアの活動促進」、優先テーマ「情報発信の環境整備」「シニア等の地域参加」、全体に係るテーマ「市民活動等への運営支援等」としました。



現在、最優先テーマ「ボランティアの活動促進」に向けて、ボランティアをしい人や関心のある人の背中を押せるような「ボランティアに気軽に参加できる仕組み」の具体化について検討を進めています。

主な意見から

- ・ボランティアをやりたい人や関心のある人に情報を届ける必要がある。
- ・ボランティアとは、「人のため」が「自分のため」につながることを知ってほしい。
- ・あなだがいて私がいる。相手の心に寄り添うことが必要。
- ・ボランティア活動に親しんでもらうため、子どもの頃から地域に関わる機会が必要である。
- ・体験ボランティアや講座をつくり、長期のボランティア活動への参加を促してみようか。
- ・ボランティア活動をしたいと思っているシニア世代の多くの方々と活動したい。
- ・団体自体の信頼性が重要。行政等が募集する公共性の高いボランティア活動は参加しやすい。
- ・交通費程度の実費がでる方が参加しやすくなる。

ご提案等記入用紙

審議テーマについてのご意見・ご提案・ご要望をお寄せいただけますよう、お願いいたします。この用紙をFAX、郵送又は直接区役所へご持参いただくか、Eメール（様式は問いません）でお願いします。

第5期区民会議事務局（麻生区役所企画課）あて
(FAX 044-965-5200、Eメール：73kikaku@city.kawasaki.jp)

※この用紙は、下記、区役所HP（区民会議）からダウンロードすることもできます。
URL: <http://www.city.kawasaki.jp/aso/page/0000041065.html>

1. テーマ「若い世代が住みやすいまちづくり」について
2. テーマ「市民活動・地域活動の活性化」について

～ご自身についてお答え下さい（それぞれに○をお願いします）～

- ① 住所 麻生区内（ 町 ） ・ 麻生区外（ 市 区 ）
- ② 年齢 20歳未満 ・ 20～29歳 ・ 30～39歳 ・ 40～49歳 ・ 50～59歳
60～69歳 ・ 70～79歳 ・ 80歳以上

麻生区区民会議ニュース

第5期 Vol.3

平成 27年 11月 19日 発行



発行/麻生区区民会議 編集/企画部会
事務局/麻生区役所まちづくり推進部企画課
電話：965-5112 FAX：965-5200 Eメール：73kikaku@city.kawasaki.jp

区民の皆様のご意見を伺い、審議を深めていきます。

区民会議では、二つの部会を設置して、調査審議を進めています。今回、各部会において、それぞれの方法で、課題の解決に向けて多くの方々の意見を伺いました。多様な意見を整理・分析して、審議を深め、暮らしやすい地域社会に向けた具体的な提言に結び付けていきたいと考えています。

●各部会の取組み状況

「若い世代が住みやすいまちづくり部会」

○テーマ「麻生区の魅力のブランド化とPR」
9月13日に開催された第2回あさお子育てフェスタにて、参加された子育て世代の方々に協力をいただき、「麻生区の魅力のブランド化とPR」について、アンケート調査を実施しました。
アンケートを集計すると、次のことが分かりました。
(アンケート人数268人)
先ず、子育て世代が感じる麻生区の魅力については、「治安がよい」(73.9%)、「緑が多い」(73.5%)、「地域の人間関係が良い」(60.4%)の回答を得ました。年齢が若く、居住年数が短い方々に評価が高い傾向がみられました。

次に、子育て世代を呼び込むためにPRしたらいポイントについては、「緑が多い」(45.5%)、「治安が良い」(42.9%)となりました。「治安が良い」「緑が多い」は、年齢が若いほど多くあげています。

全体としては、「治安が良い」「緑が多い」ことが、子育て世代の方々に高く評価されていることが分かりました。一方、「文化施設の充実」「芸術のまち」は、あまり魅力として認識されていないようです。

○テーマ「空き家の利活用」

高齢化で生じた空き家等をシェアハウスとして利活用できないかをテーマに、不動産業者との意見交換、学生(若い世代)のニーズを把握するため区内・近隣にある大学へヒアリング調査を実施しました。不動産業者との意見交換の中では、空き部屋を貸してもよいという大家さん(高齢者)がいるとの話がありました。大学へのヒアリングをした結果、最近の学生は、1人暮らしを好む傾向があることがわかりました。一部、シェアハウスに関心のある学生がいる大学では、地元の理解・協力があがり、区役所の支援があれば、シェアハウス等の事業を実施できるといった意見もありました。

今後、特定した麻生区の魅力の具体的なPR方法の検討や、空き家の利活用について、どのような機関との調整が必要なのかを検討していきます。



子育てフェスタでのアンケート調査

「市民活動・地域活動の活性化部会」

10月31日の「麻生区健康づくりのつどい」にブースを設置して、「ボランティア活動に参加して健康寿命を延ばしましょう！」をキャッチフレーズに「こころの健康づくり」を来場者に呼びかけ、ボランティア活動について、インタビュー調査を行いました。

健康寿命の延長とボランティア活動の関係についてパネルを使って説明し、多くの方の共感を得ることができました。インタビュー調査では、ボランティアの関心の有無、参加したきっかけ、気軽に参加できるようにするために必要なこと、に関する意見を聞き取り、ポストカードに記入してボードに貼り出しました。

参加したいけど、どこに情報があるのかわからない

1人で不安・・・友達に誘われたいら参加する!

ボランティアって何だろう?

あまりの関心はないな・・・

特技や語学を生かしたい!

参加したいけど、どこに情報があるのかわからない

夫が参加しています!

興味で忙しい

定年になったら考えたい

キャッチフレーズに共感!

東京五輪のボランティアに参加したい!

127人の意見

今後、寄せられた多様な意見を整理・分析して、審議を深め、提言に結び付けていきます。

●区民会議に寄せられた意見等の要旨について

当区民会議の審議テーマについて、ご意見、ご提案をお寄せいただき、ありがとうございます。各委員は、寄せられたご意見やご提案等を調査や情報交換など共有し、審議の参考にさせていただいています。ご意見等の要旨を紹介します。

- 鶴巻公園に見られるような子ども達の笑顔があらわれる街に、子育て世代の方々の意見やアイデアを取り入れる必要があるのではないかと。
- 麻生区の文化水準(ポテンシャル)を有効に活用することが、麻生区の魅力のブランド化につながるのではないかと。
- 「どのようなボランティア活動が地域社会で求められているか」というニーズに対応した視点で参加や促進につながるのではないかと。

審議テーマについてのご意見・ご提案・ご要望をお寄せいただけますよう、お願い致します。

区民会議事務局「麻生区役所企画課」〒215-8570 川崎市麻生区万福寺1-5-1

電話：044-965-5112 FAX：044-965-5200 Eメール：73kikaku@city.kawasaki.jp



区議会7フォーラム開催

やっぱり、定年過ぎても
夫は元気で留守がいい？

パートナーには、いつまでも元気でいてほしい。これからも外に出て“イキイキ”と活躍してほしい。今回のフォーラムでは、高齢者の社会参加について研究されている先生を招き、地域とのつながりの中で楽しく健康に暮らすためのヒントをお伝えします。



健康寿命を延ばすには？

藤原佳典氏

東京都健康長寿医療センター研究所
社会参加と地域保健研究チーム 研究部長

2月21日(日)

13時半～16時 開場13時

麻生区役所4階第1会議室

【ご来場は、公共の交通機関をご利用ください】

※手話通訳を希望される方は、2月15日までに事務局へ御連絡ください

事前申込不要
無料
当日先着
150名

区民会議では、2つの部会で審議テーマの解決を図るため、更に審議を深めています。

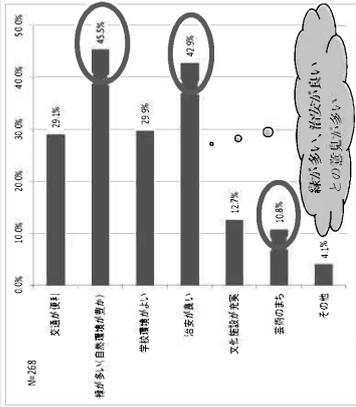
若い世代が住みやすいまちづくり部会

審議テーマ「麻生区の魅力のブランド化とPR」

子育て世代と若い世代の感じる魅力についてアンケート、ヒアリング結果を踏まえて、審議しています。

＜主な委員意見＞

- 「緑が多い」や、「治安が良い」などの内容の裏付けとなるデータを把握する必要がある。
- 想定していたよりも、麻生区に魅力を感じていることがわかった。さらにどこをよくしていけばよいか検討が必要。
- 「芸術のまち」について、若い人には、なかなか浸透していない。若い人が芸術に触れることができる機会を増やしていく必要がある。
- アルトリックやアートセンターがあるが、市の事業や施設のため、麻生区のHPの中には含まれていない。芸術のまち麻生のPRが足りていない。



子育て世代を呼び込むために、麻生区の魅力の中で何をPRしたらよいか?に対するアンケート結果

審議テーマ「空き家の活用」

不動産団体との意見交換、大学へのヒアリング結果を踏まえて審議しています。

＜主な委員意見＞

- シェアハウスについての学生のアンケート結果では、179人の回答のうち71人がシェアハウスをしたいと回答している。地元の理解や協力があれば可能ではないか。



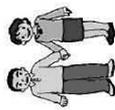
市民活動・地域活動の活性化部会

審議テーマ「ボランティアの活動促進」

昨年10月に開催された「健康づくりのつどい」において、「健康寿命を延ばす」をキーワードに127人の区民の皆様から、ボランティア活動に関する意見を集め、分析しています。ボランティアを始めるきっかけは、「友人・知人に誘われて参加した」、実際に参加できるようにするために、「効果的な情報発信」や「背中を押す仕組み」が必要との意見が多く集まりました。

＜主な委員意見＞

- ボランティア団体などが出している情報が、受け手の区民に伝わっていない。血管にコレステロールがたまり、血の流れが悪いイメージ。詰まりの解消が必要。
- 単にボランティアの講演会や養成講座をやるだけでは十分でない。身近な人の誘いから参加し始める道筋を、受講後のフォローも考える必要がある。
- ボランティアに参加するきっかけは「友人・知人に誘われて参加した」が有効ということ。話し方が違っているが、地域の中に知人が多い女性の話ではないか。男性と女性では背中を押す方が違うのではないか。
- 活動団体とボランティアをしいたい人を横につなぐ、連携という点では、地域コーディネーターという役割が必要。また、ボランティアを必要としている団体に助言する体制も必要。



審議テーマについてのご意見・ご提案・ご要望をお寄せいただけますよう、お願い致します。
区民会議事務局【麻生区役所企画課】〒215-8570 川崎市麻生区万福寺1-5-1
電話：044-965-5112 FAX：044-965-5200 Eメール：73kikaku@city.kawasaki.jp

麻生区民会議ニュース

第5期 Vol.5

発行/麻生区民会議 編集/企画部会
事務局/麻生区役所まちづくり推進部企画課
電話：965-5112 FAX：965-5200 Eメール：73kikaku@city.kawasaki.jp

平成28年3月23日発行



区民会議フォーラム

「健康寿命を延ばすには？」を開催しました！

麻生区民会議の市民活動・地域活動の活性化部会では、「ボランティア活動の促進」をテーマに掲げ、ボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくりについて審議しています。
今回のフォーラムは、何をしてもなく、なんとなく毎日を通しているシニア世代の方にボランティア活動の目をつけてもらうことを目的として開催しました。

はじめに、第5期区民会議の企画部会および2つの専門部会から審議経過を報告しました。
続いて、今回のフォーラムテーマである「健康寿命を延ばすには？」に関して高齢者の社会参加と健康維持について研究されている藤原生典先生に講演をしていただきました。
会場内には、市民活動・地域活動の活性化部会が作成したパネルや区民会議を紹介するパンフレットなどを展示するコーナーを設置しました。
多くの方々にご来場いただき、ありがとうございました。



皆さん、講演を熱心に聞いていました

【開催概要】

- 開催日時：平成28年2月21日(日)
午後1時30分～4時00分
- 開催場所：麻生区役所4階第1・2会議室
- 参加人数：110人

【当日プログラム】

- 区民会議報告
- ①企画部会
- ②若い世代が住みやすいまちづくり部会
- ③市民活動・地域活動の活性化部会
- 講演：藤原 生典氏
(東京都健康長寿医療センター研究部部長)
テーマ「健康寿命を延ばすには？」



展示コーナーの様子

麻生区民会議

検索

今回の区民会議フォーラムの報告や各部会の審議状況などは、今後、麻生区民会議のホームページで公開する予定です。

講演内容について（抜粋）

講演：「健康寿命を延ばすには？」

東京都健康長寿医療センター研究部部長 藤原 生典氏

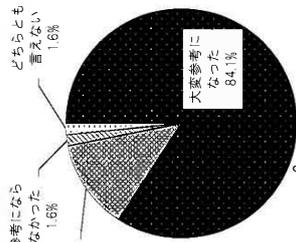


- 研究所で調査している「健康寿命の10か条」では、生活習慣病の予防・老化の予防の2つのタイプに分けています。生活習慣病の予防は喫煙や過食等の節制を、老化の予防は積極的な生活を指しています。これからは生活習慣病の予防だけでなく、老化の予防についても考えて頂ければと思います。
- 数多くの論文を集めて調査したところ、BMIや、飲酒や喫煙を嗜むよりも社会とのつながりが少ない人の方が死亡率に与える影響が大きいとのデータが出ています。孤立しないことは、高齢者の問題だけではなく、できるだけ多くの知り合いを作りながらを構築していくことが、災害などのいざという時に役に立ってきます。
- 交流を絶えずなく、蜘蛛の巣のように張り巡らせていくことが大切になってきます。ソーシャルキャピタルとは、地域でいえるはお互い様や団結力を活かして支え合うことを意味します。ソーシャルキャピタルの中で大事なのは、ボランティア精神ではないかと思えます。つながりといっても、ボランティアの問題などで自然発生的には起こらないので、交流が由来やすい仕掛けを作ることが重要です。その仕掛けの中で大切なのは、まずはシニアの方からボランティアをスタートして欲しいということです。
- 家族の問題が複雑化しているため、多世代が関わられる仕組みが重要です。例として、シニア世代からの子どもへの読み聞かせ「りぶりんと」プログラムがあります。ボランティアとして、活動するのは1人週1回程度ですが、読む練習や本の選定や反省会などボランティアのサイクルができています。
- ボランティアを長続きさせている方に話を伺いますと、相手の都合で上手くいかなくても寛容な気持ちで受け止め、ボランティアができる状態に感謝することが、楽しむコツであるとのことでした。

【参加者の声】



- ・ボランティアについて、自分に何ができるのか、考えてみたいと思った。
- ・もっと多くの方に参加して（聞いて）いただけたらと思う。
- ・イメージで分かっていると思うと違って内容がより具体的、数字で明確に認識できた。実際にアクションを起こすことが出来ない人には良い講演であった。
- ・今は仕事に追われており、地域への参加が困難であるが、将来的には何らかの形で地域への活動に取り組んでいきたい。
- ・外に出て、他人と話し前向きで明るい生活にしようと思う。
- ・ボランティアに一歩踏み出してみようかと心が動きました。自立した老後を送るためにも、楽しみながら行動に移したいと思う。



95%以上の参加者が参考になったと回答しました

■第5期区民会議では、「若い世代が住みやすいまちづくり部会」と「市民活動・地域活動の活性化部会」の2部会に分かれ、提言に向けた審議を進めています。

■第8回全体会議は5月13日(金)15時00分(開場14時45分)から麻生区役所4階第1会議室で開催します。

区民会議の取り組みに関心のある方は、ぜひ傍聴にお越しくください。(当日先着15人)

第 5 期 Vol.6 【提言概要版】

発行/麻生区民会議 編集/企画部会
事務局/麻生区役所まちづくり推進部企画課
電話：965-5112 FAX：965-5200 Eメール：73kikaku@city.kawasaki.jp



第 5 期区民会議の提言まとまる！

平成 26 年 7 月にスタートした第 5 期麻生区民会議は、平成 28 年 5 月 13 日（金）に最後となる全体会議（第 8 回）を開催しました。これまでの調査審議の経過や取組、提言などを内容とする第 5 期麻生区民会議報告書「心がかよう魅力あるまち あさお」を全体会議において取りまとめました。会議終了後、金光秀尚委員長から北沢麻生区長に報告書を提出しました。

第 5 期麻生区民会議では、抽出された麻生区内の地域課題をもとに、ワークショップ（ワールド・カフェ方式）を行い、区民にとって関心が高く、特に対策が必要なテーマである「若い世代が住みやすいまちづくり」と「市民活動・地域活動の活性化」の 2 つの専門部会に分かれ、審議を重ねてきました。

今号では、2 年間の調査・審議結果をもとにそれぞれの部会から生まれた提言の概要及び課題解決への取組について皆様にお知らせします。



◎ 麻生区民会議

金光委員長から北沢区長に報告書を提出しました



◎ 麻生区民会議

今回の提言をまとめた区民会議委員

報告書は 7 月以降、麻生区役所企画課窓口で配布する他、区のホームページからもご覧いただけます。

麻生区民会議

検索

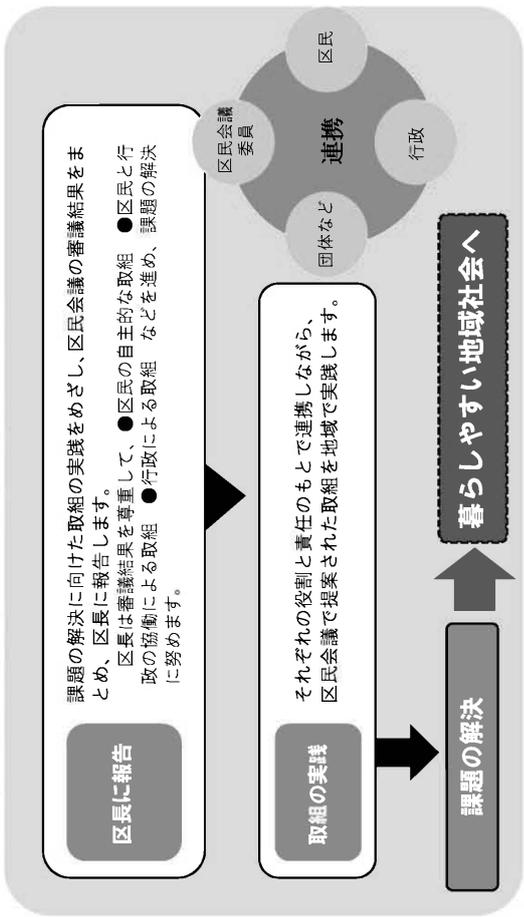
今回提出された報告書



第 5 期 麻生区民会議報告書

～心がかよう魅力あるまち あさお～

3 区民会議の課題解決への取組（提言から実践へ）



区民会議へのご意見ありがとうございました

第 5 期区民会議に対し、区民の皆様から多くの意見、提案が寄せられました。皆様の麻生区への思いと区民会議への期待として受けとめさせていただきました。寄せられた意見等については、議論するとともに、関係する担当課へ情報提供させていただきました。

平成 28 年 4 月以降に寄せられた主な意見の概要をお知らせします。

■「芸術のまち」というコンセプトについて

芸術のまちが浸透しているかどうかというのは、一般の方が暮らしていて、日常的に「芸術」に触れる機会があるかどうかということとほぼイコールではないかと思うのです。具体的な案として、①人通りの多い場所に、「増設の屋外イベント場所」を確保する ②イベントや舞台の宣伝を兼ねて、定期的に生演奏、生演技、実演等を披露する ③出演者が次の出演者を迎えてくる。芸術活動をしている方が多いのですから、それらの活動が有機的に結びつくような仕組みができ、まだ関心のない方へ届くようになつたらよいと考えております。

■区民の地縁活動（町内会等）と志縁活動（ボランティア等）の連携・協力について

現在、「ボランティアの活動促進」について調査審議が進められております。できましたら、この取組の次のステップとして、市民の志縁活動と地縁活動との連携・協力による区民活動の活性化について、調査審議のテーマにしていただければと思います。区の「共同・連携」推進事業とも関連付け、麻生区内の各地域住民が自らの住む地域の「未来づくり」に取り組み、仕組みづくりについて、ご検討いただければと思います。

なお、第 6 期区民会議は 7 月からスタートする予定です。区民会議はご自身も傍聴可能です。関心のある方はぜひお越しください。会議の開催日程は、決まり次第、区ホームページ等でお知らせします。

第 5 期麻生区民会議報告書（提言概要版）

区民会議事務局 [麻生区役所企画課] 〒215-8570 川崎市麻生区万福寺 1-5-1

電話：044-965-5112 FAX：044-965-5200 Eメール：73kikaku@city.kawasaki.jp

1 「若い世代が住みやすいまちづくり部会」からの提言

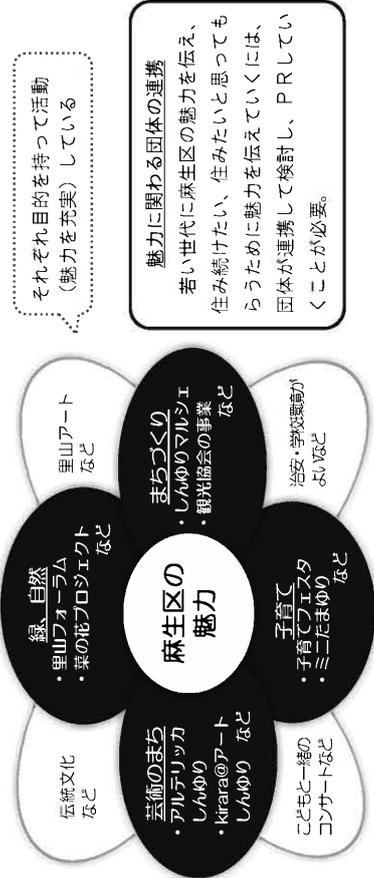
若い世代が住みやすいまちづくり部会では、若い世代が転入し、安心して住み続けてもらうため、「麻生区の魅力のブランド化とPR」と「空き家の利活用」について検討してきました。

調査審議の結果、麻生区は「若い世代が住みやすいまち」としての魅力にあふれていること、空き家の利活用についても、様々な取組が進められていることがわかりました。その一方、「魅力についてはさらに周知・PRしていくこと」、「空き家の利活用は地元の理解を得ること」が必要であると考え、次の3つの方向性から、4つの提言を取りまとめました。

- I 魅力に関わる団体の連携 II 魅力の情報発信 III 空き家の利活用

I 魅力に関わる団体の連携

提言1 区民と行政が協働した組織体制をつくり、具体的な検討・取組を進める上で、「区民会議」を活用することや、「(仮称)麻生区魅力PR委員会」の設置を提案します。



II 魅力の情報発信

提言2 麻生区の魅力をPRする方法として、「麻生区のホームページの改善」と「(仮称)麻生シティセールス・PR前門」の設置を提案します。

○魅力をPRする上で、特にホームページは重要であり、早急に内容を充実させ、魅力をわかりやすく発信していくことが求められます。

提言3 麻生区の魅力をブランド化し、効果的にPRしていくための「キャッチフレーズ」を検討し、活用していくことを提案します。

○麻生区にあるさまざまな魅力を集約し、若い世代を呼び込むための分かりやすいキャッチフレーズが求められています。例として、「いなかのある都会」を検討しました。

III 空き家の利活用

提言4 学生・若い世代や地域(町内会・自治会)、NPO・大学・民間業者等による地域ぐるみの仕組みとして、「空き家ネットワークの構築」を提案します。

- 空き家のネットワークを構築するため、次のとおり検討を進め、実施していくことが考えられます。
- ① 空き家の実態把握を行うとともに、現在区内で進められている空き家の利活用の事業等について調査・ヒアリングを行い、それらをモデルケースとして、得られた効果を踏まえ、さらに効果的な対策の検討を進める。
- ② 実態を踏まえた、空き家所有者等からの情報提供と、利活用に向けた仕組み・地元の理解・協力を得るためのルールづくりや、支援策を検討する。
- ③ 空き家の利活用に向けて、大学やNPO・民間事業者等との連携体制を整備する。
- ④ 以上を踏まえ、地域、大学・NPO・民間事業者が連携し、行政の支援を得ながら実施していく。

2 「市民活動・地域活動の活性化部会」からの提言

市民活動・地域活動の活性化部会では、シニア世代を念頭に、ボランティア活動に気軽に参加できる環境を整えることを検討しました。調査審議の結果、ボランティア活動に関する多くの地域資源を活用して、ボランティア活動に気軽に参加できる環境づくりについて、次の3つの方向性から、4つの提言を取りまとめました。

- I ボランティア活動の土壌づくりに向けて
- II 「あさおボランティア情報センター(仮称)」の設置に向けて
- III ボランティア参加のきっかけづくりに向けて

I ボランティア活動の土壌づくりに向けて

提言1 誰もがボランティアを身近に感じ、ボランティア活動に参加しやすい機運を高めるために「ボランティアのまち・あさお」を掲げることが提案します。

○ボランティアな活動が浸透した、人と人が支え合う暮らしやすい地域社会を将来イメージとして、「ボランティアのまち・あさお」を掲げることで、ボランティア活動の土壌をつくることができ、区民が参加しやすい機運が高まり、普段からボランティア活動を身近に感じることができるようになると考えます。

II 「あさおボランティア情報センター(仮称)」の設置に向けて

提言2 「あさおボランティア情報センター(仮称)」を拠点とした、ボランティア参加のネットワークを構築することを提案します。

○本部会では、地域に多数あるボランティア資源を活用して、関心のある区民の方々を様々なボランティア活動につなげるための仕組みとして「あさおボランティア情報センター(仮称)」の設置を提言します。このセンターは総合的なコーディネート機能を有し、人や団体、資源をつなぐ役割を担います。

○現時点では、センターは、区内の機関の連携の連合体をイメージしています。まずは、中間支援組織や市民活動を支援する区役所が連携し、情報やボランティア活動支援のノウハウを共有して、ボランティアに関心を持たせた人を相応しいボランティア活動につなげていくことが必要です。たとえば、各相談窓口がお互いに情報やノウハウを共有し連携した上で、ボランティア参加のネットワークの総合案内窓口をつくることも考えられます。

III ボランティア参加のきっかけづくりに向けて

提言3 ボランティア情報の効果的な発信とともに、情報の一元化の取組を進めることを提案します。

- 情報を発信することで、ボランティア活動をした人、ボランティアを求めている人・団体とを、より一層つなげることが必要であると考えます。
- シニア世代に、ボランティアに関する情報を周知する際には、図書館や麻生老人福祉センター、スポーツセンター、公園健康体操等、シニア世代が集まる施設・場所に、定期的に情報を発信していくことが有効であると考えます。相談窓口等の周知にあたっては、多くの方に読まれている市政だより区版や地域情報紙を活用し、その存在を知らせていくことが効果的であると考えます。

提言4 相談窓口の連携、入門講座や体験講座の開催等を通じて、ボランティアに関心を持った区民に対して「参加への一押し」をすることを提案します。

○ボランティアに関心を寄せた区民に対しての受け皿が必要で、麻生市民交流館やまゆり、麻生市民館、麻生区社会福祉協議会等に設置されている相談窓口は、希望に連れたい団体を探索する上で非常に頼りになる存在と考えます。区民のみならず団体にとっても身近な窓口になるように、それぞれの窓口の特色を活かすつも、情報やノウハウの共有等、更なる連携が求められます。

第5期区民会議スタート

委員長に金光氏

行政と区民が協働で、地域の課題解決に向けた取り組みを審議し、区に提言する第5期麻生区区民会議がスタートした。第1回全体会議が4日、区役所で開かれ、委員長には元麻生まち



第1回全体会議の様子

第5期麻生区区民会議の委員は次の通り(敬称略、カッコ内は推薦団体など)。

- 石井郁朗(区長推薦)、石井よし子(里山フォーラム in 麻生)、石川和香子(公募)、植木昌昭(区長推薦)、上野博之(公募)、岡倉進(公募)、小尾静枝(区長推薦)、梶久夫(セレサ川崎農業協同組合)、金光秀尚(区長推薦)、志村節子(区長推薦)、白井勇(区長推薦)、菅野明(麻生区文化協会)、高倉秀敏(公募)、高橋克司(区長推薦)、高橋慶子(麻生区町会連合会)、林恵美(公募)、宮本善夫(麻生区社会福祉協議会)、山田安之(麻生区地域教育会議)、横田豊(麻生防火協会)、吉垣君子(区長推薦)。

つくり市民の会長で、第3期区民会議から委員を務める金光秀尚氏が選出された。

今後は、第2回全体会議で調査審議課題の選定、専門部会の設置、各委員の所属部会の決定が予定されている。3カ月ごとに全体会議が行われ、現状と課題の把握から課題解決策の検討・まとめ、報告書・提言の作成を2年間で行っていく。

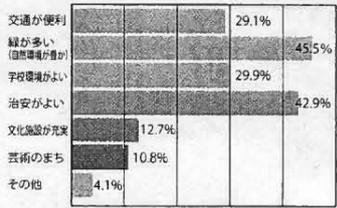
区民会議

区の魅力ブランド化審議

空き家利活用もテーマに

行政と区民が協働で地域の課題解決に向けた取り組みを審議し、区に提言する「第5期麻生区区民会議」の「若い世代が住みやすいまちづくり部会」は現在、区の魅力のブランド化とPRや、空き家の利活用について審議を重ねている。アンケート結果などを踏まえ、委員らが具体策などを検討していく方針だ。

同部会では昨年開催された「あさお子育てフェスタ」の来場者を対象に、「子育て世代を呼び込むために、麻生区の魅力の中で何をPRしたらよいか」のアンケートを行った。結果、「緑が多い(自然環境が豊か)」が最も高い割合の45・5%、次いで「治安がよい」が42



子育て世代を呼び込むために、麻生区の魅力の中で何をPRしたらよいか?に対するアンケート結果

この結果を受け、区の魅力のブランド化とPRをテーマに行われた審議では、委員から「芸術のまちについて若い世代

にはなかなか浸透していない。若い人が芸術にふれる機会を増やしていく必要がある」という意見や、「芸術のまち麻生のPRが足りていない」という意見などが出ている。今後、区がもっている魅力に磨きをかけることや周知について、幅広く

意見を集めながら具体策を見出していくという。また、同部会では空き家の利活用についての審議も行われている。区内王禅寺東などでは1975年ごろに開発された住宅に住む人の高齢化が進み、空き家が増えてきていることがテーマに選ばれた理由の一つ。現在、不動産団体との意見交換、区内大学でのヒアリングを行っており、さらに調査を進め、さまざまな角度から区に空き家の利活用を提案していく考えだ。

マイタウン No. 716
2016 (平成28年) 2月

セミナー 2/21(日)13:30~16:00
麻生区役所 第1・2会議室

第5期麻生区区民会議フォーラム
健康寿命を延ばすには？

何をやりたいのか分からなくて毎日モヤモヤと過ごしている、そんなあなたの活躍の場所は身近な所にあるかもしれない。市民活動・地域活動を通じて、楽しく健康に暮らすためのヒントを伝える講話。講師／藤原佳典(東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム研究部長)。当日先着150人。無料。

☎044-965-5112麻生区役所企画課

メディあさお No. 170
2016 (平成28年) 2月

区民会議フォーラム

2月21日13時30分、麻生区役所。テーマ「健康寿命を延ばすには?」。講師、東京都健康長寿医療センター研究所の藤原佳典さん。☎044-965-5112麻生区役所企画課

メディあさお No. 173
2016 (平成28年) 5月

タウンニュース No. 498
2016 (平成28年) 2月



区民会議です



このコーナーでは、区民会議での協議の様様や、お知らせなどを不定期で紹介していきます。

住民が区の課題について話し合い提言を行う区民会議。現在、5月13日午後3時から麻生区役所で行われる全体会議の傍聴者を募集しています。

現在の区民会議は第5期で、2014年から「若い世代が住みやすいまちづくり部会」「市民活動・地域活動の活性化部会」の2つの部会に分かれて審議を行っ

てきました。今回の全体会議は、6月に第5期区民会議が終了するのを前に各部会での審議結果を報告するものです。

また、現在第6期の委員を募集しています。関心のある人は4月28日までに区役所に問い合わせを。

問い合わせは☎044-965-5112区役所企画課。

健康寿命延ばすヒント

2月21日(日)午後1時30分から麻生区役所で、都健康長寿医療センター研究所の藤原佳典氏による講演「健康

寿命を延ばすには?」開催。申込不要で先着150人。(問)区企画課(☎044・9

65・5112)へ

表紙写真説明

右側：落書き消しの様子

麻生区内の美化と安心で安全なまちづくりを推進していくために、市民活動団体「あさお落書き消し隊」の会員や区民が区内駅周辺を中心に落書き消しをボランティアで実施している。

中央：菜の花プロジェクトの様子

菜の花を栽培し、なたね油を搾って家庭などで利用、油かすは飼料や肥料として有効活用します。廃食油は回収して、せっけんやBDFにリサイクル、再び地域で利活用する循環型社会をめざしている。

左側：アート市 in アルテリッカの様子

アルテリッカしんゆり（川崎・しんゆり芸術祭）の一環として開催されるアート市。市民も一緒に“芸術（アート）”に携わるという意味も込めて、アーティストの作品の展示・販売をするイベント。

第5期麻生区区民会議報告書

（平成28年6月）

発行：麻生区区民会議

事務局：麻生区役所まちづくり推進部企画課

〒215-8570 川崎市麻生区万福寺 1-5-1

電話：044-965-5112 F A X：044-965-5200

E-mail：73kikaku@city.kawasaki.jp

